第１章　佐世保市の概況

1.佐世保市の概要

2.主たる産業の状況

3.市の人口

4.地域の将来人口と特性

第１章　佐世保市の概況

１．佐世保市の概要

佐世保市は、長崎県の北部に位置し、長崎市中心部より約 50km、九州経済の中心地である福岡市から南西約 100km にあります。市域は、総面積 426.47k ㎡で、リアス式海岸による深い入り江を持つ天然の良港を持ち、また山河に恵まれた地域です。

市域の西から南にかけては海に接しており、宇久島、黒島等の離島を多く有し、漁業も盛んとなっています。

年間の平均気温は 17.3℃（平成 22 年度）、降水量は 1,973.5mm(平成 22 年度)で、対馬暖流の影響で、比較的温暖な地域である一方、台風の通過もしばしばあり、平成 18 年、19 年は３度、平成 21 年は１度、平成 22 年は２度通過しています。

面積 426.47ｋ㎡は県下２番目、田畑及び山林が約半分を占めます。人口は減少傾向にあるものの 25 万人を超え、九州地方では唯一の特例市に指定されています。

市経済の特色としては、佐世保重工(株)を中核として市の製造品出荷額の約半分を占める造船関連産業の集積、今後が期待されるハウステンボスや西海国立公園に代表される観光産業、そして観光消費額を上回る需要をもたらす自衛隊基地・米軍基地の存在が挙げられます。さらに JR 佐世保駅周辺の三ヶ町、四ヶ町商店街は全国一の直線アーケードで市内広域から集客し、衰退の目立つ全国の中心商店街の中で際立つ活気があります。

面積	総面積　426.47k ㎡　（平成２３年版市統計書） －田　40.46ｋ㎡　（9.5%） －畑　38.34ｋ㎡　（9.0%） －宅地　35.53ｋ㎡　（8.3%） －山林　118.20ｋ㎡　（27.7%） －原野　27.44ｋ㎡　（6.5%） －池沼　0.45ｋ㎡　（0.1%） －雑種地　14.18ｋ㎡　（3.3%） －その他　151.87ｋ㎡　（35.6%）
人口	人口 26 万 1,101 人　（平成２２年国勢調査）
主な交通網	鉄道 －JR 九州８駅（佐世保線５駅、大村線３駅） －松浦鉄道 22 駅 道路 －西九州自動車道 －西海パールライン有料道路 他 その他バス、フェリーなど

２．主たる産業の状況

佐世保市は、ハウステンボスや西海国立公園「九十九島」に代表される観光業、佐世保重工業(株)による造船業を中心とした製造業が主力産業となっています。また、市内には自衛隊基地、米軍基地があり、観光消費額を上回る需要をもたらしています。

（１）観光業の状況

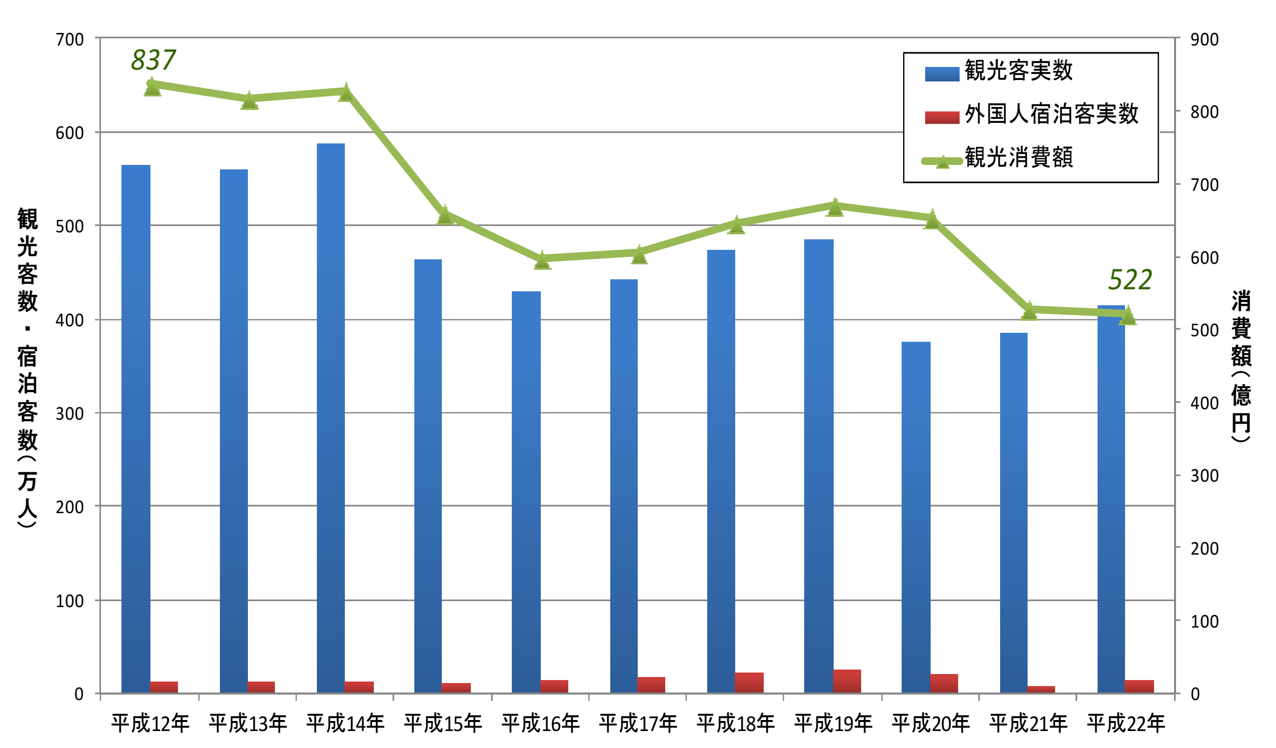
観光客数は、世界的な景気後退、円高等の影響もあり、10 年前には約 600 万人あった観光客は約 400 万人の水準にまで落ち込み、近年はその水準を維持する状態が続いています。観光消費額も観光客数に比例し、平成 12 年の 837 億円から平成 22 年の 522 億円にまで減少しています。

平成２２年は平成２１年より回復の兆しがみえたものの、ＥＵ金融不安、新興国の伸び悩み、円高等の外因や、東日本大震災に伴う原発事故の影響等も長引いており、暫くの間は海外からの旅行者は大きく期待できないものと思われます。

しかし、観光業は、これからも地域経済にとって産業の中心であることには変わりはなく、地域の活性化や就業機会の創出等の面で市施策の重要な部分を占めると考えられます。

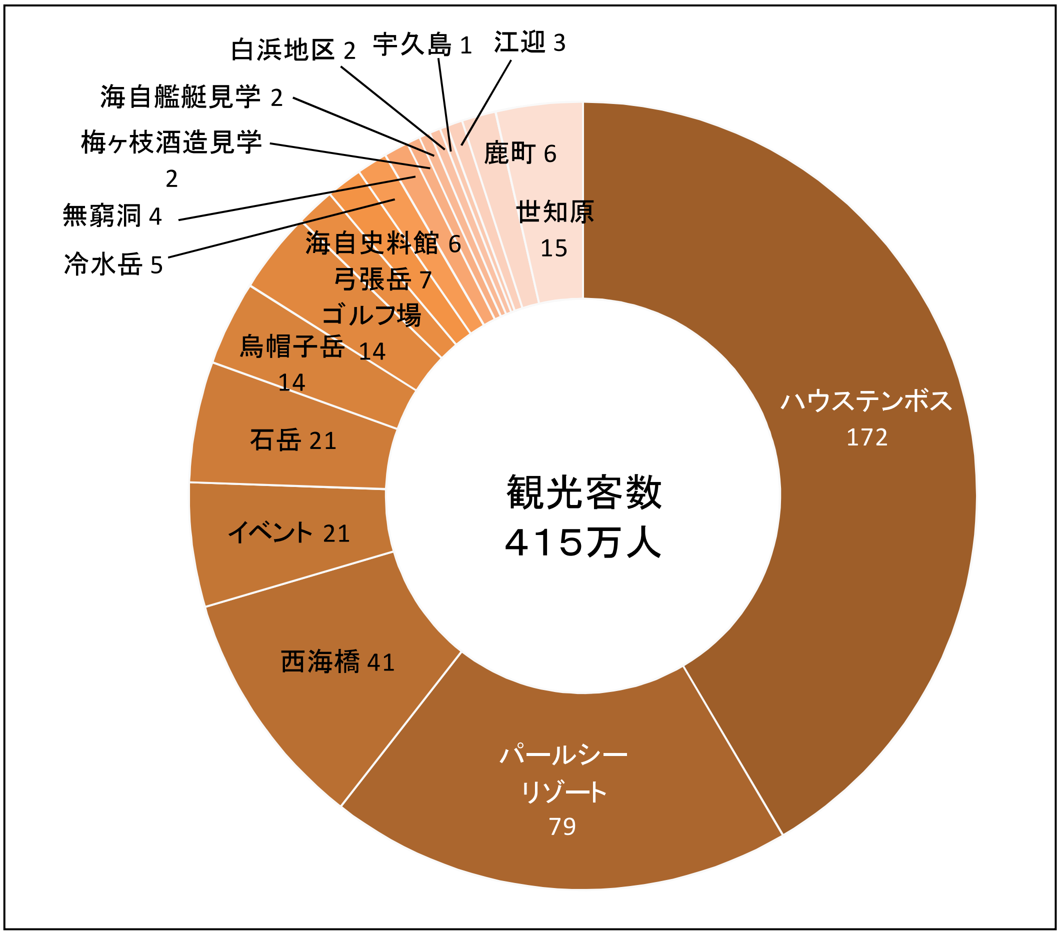
観光拠点であるハウステンボスにおける新たな取組みや西海パールシーリゾートにおける九十九島水族館(海きらら)の魅力アップ計画の推進、国際航路の開設、佐世保ならではの着地型観光商品の販売強化等により、観光客の増加が期待される状況です。

図表　佐世保市の観光客数、観光消費額の推移



（出典）平成 22 年「佐世保市観光統計」

図表　平成 22 年地点別観光客数　（万人）



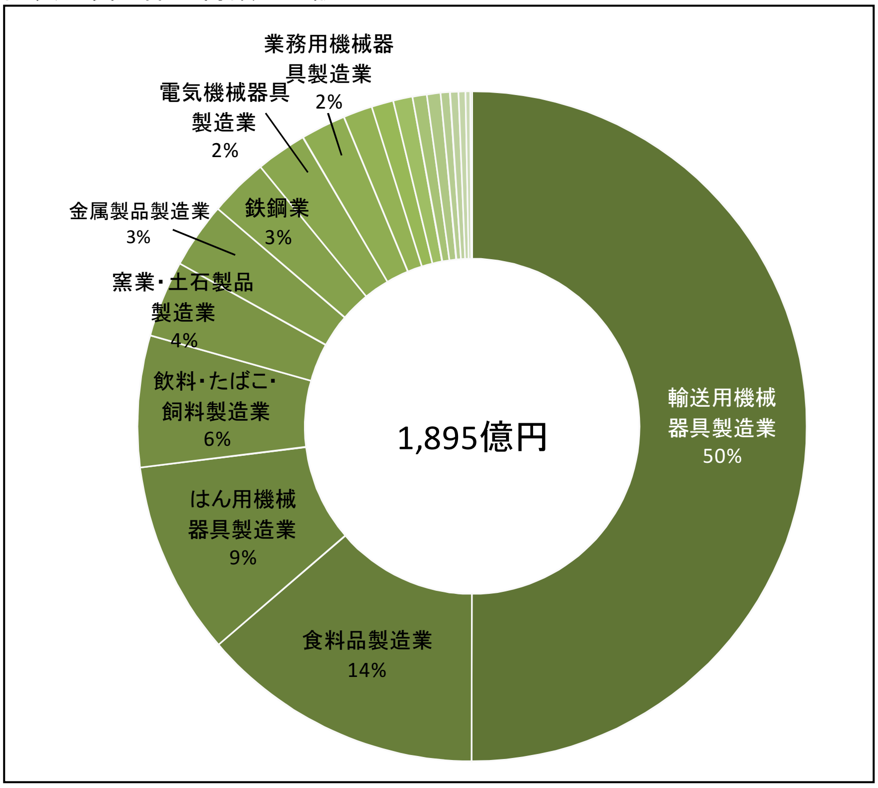
（出典）平成 22 年「佐世保市観光統計」

（２）製造業の状況

長崎県工業統計によると、佐世保市の製造品出荷額は 1,895 億円であり、その内 50%を輸送用機械器具製造業（造船業）が占めています。

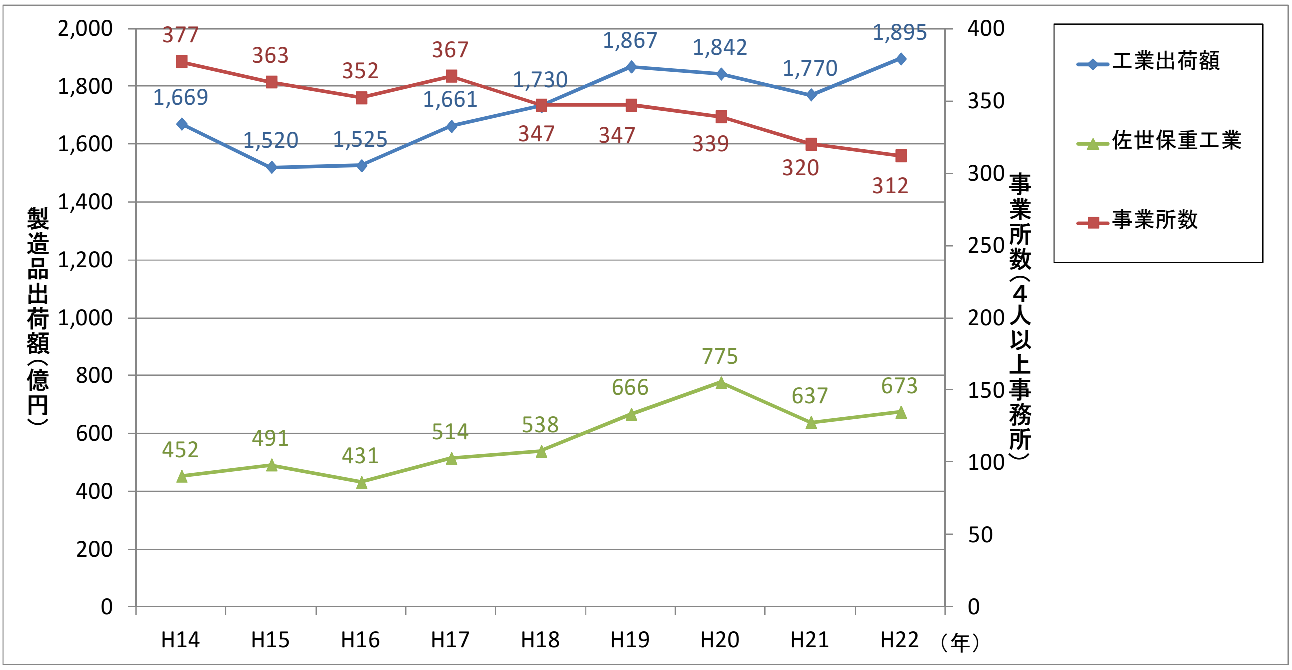
また、工業統計によれば、平成 14 年から 15 年にかけて、製造品出荷額は落ち込んだものの、近年は増加傾向にあります。

図表　製造品出荷額の内訳



（出典）「長崎県工業統計」

図表　製造品出荷額の推移



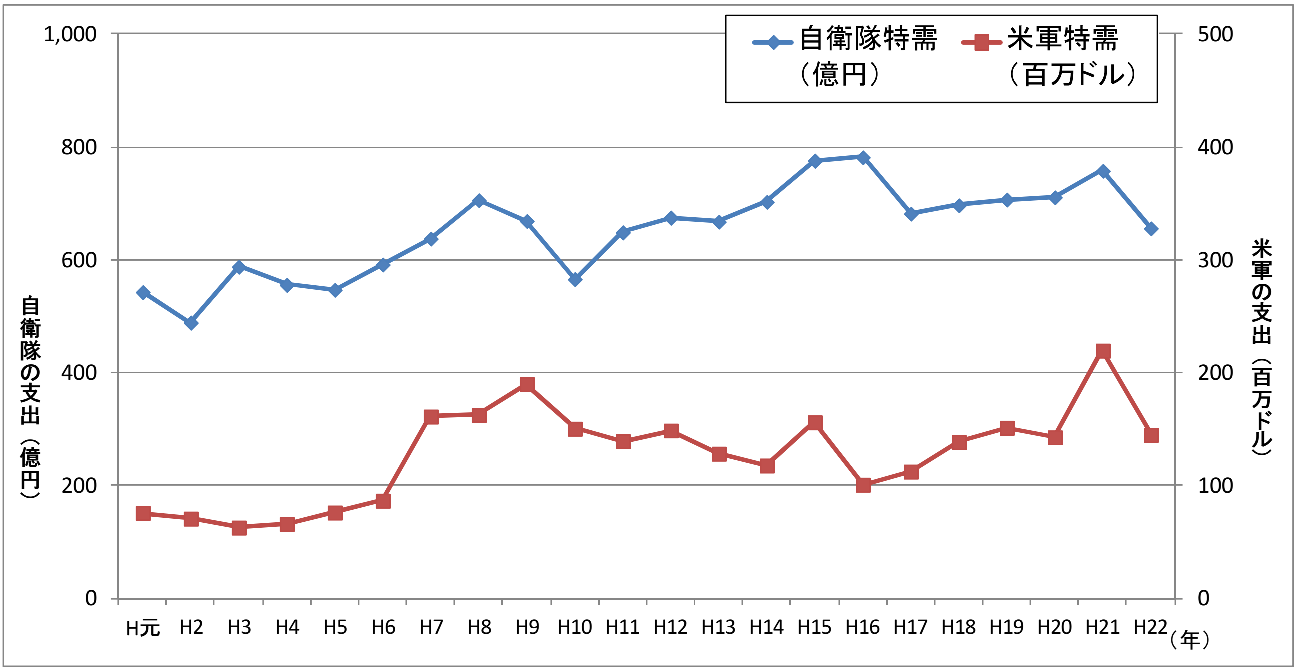
（出典）「長崎県工業統計」、平成 23 年「佐世保地域経済の動向」

（３）基地による地域経済の影響

観光消費額を上回る需要をもたらす自衛隊基地、米軍基地の存在は、本市にとって大きな経済効果をもたらしています。

「佐世保地域経済の動向」（平成 23 年８月）によれば、自衛隊の支出は、平成 13 年度から平成 22 年度までの 10 年間で約 656 億円から約 782 億円で推移しています。また、米軍の支出は平成 13 年度から平成 22 年度までの 10 年間で約 100 百万ドルから約 220 百万ドルで推移しています。

図表　自衛隊・米軍の支出推移



（出典）平成 23 年「佐世保地域経済の動向」

３．市の人口

（１）人口推移

人口は平成 12 年の 27 万 4,399 人から平成 22 年に 26 万 1,101 人と約 5%の減少となり、人口減少が始まっています。

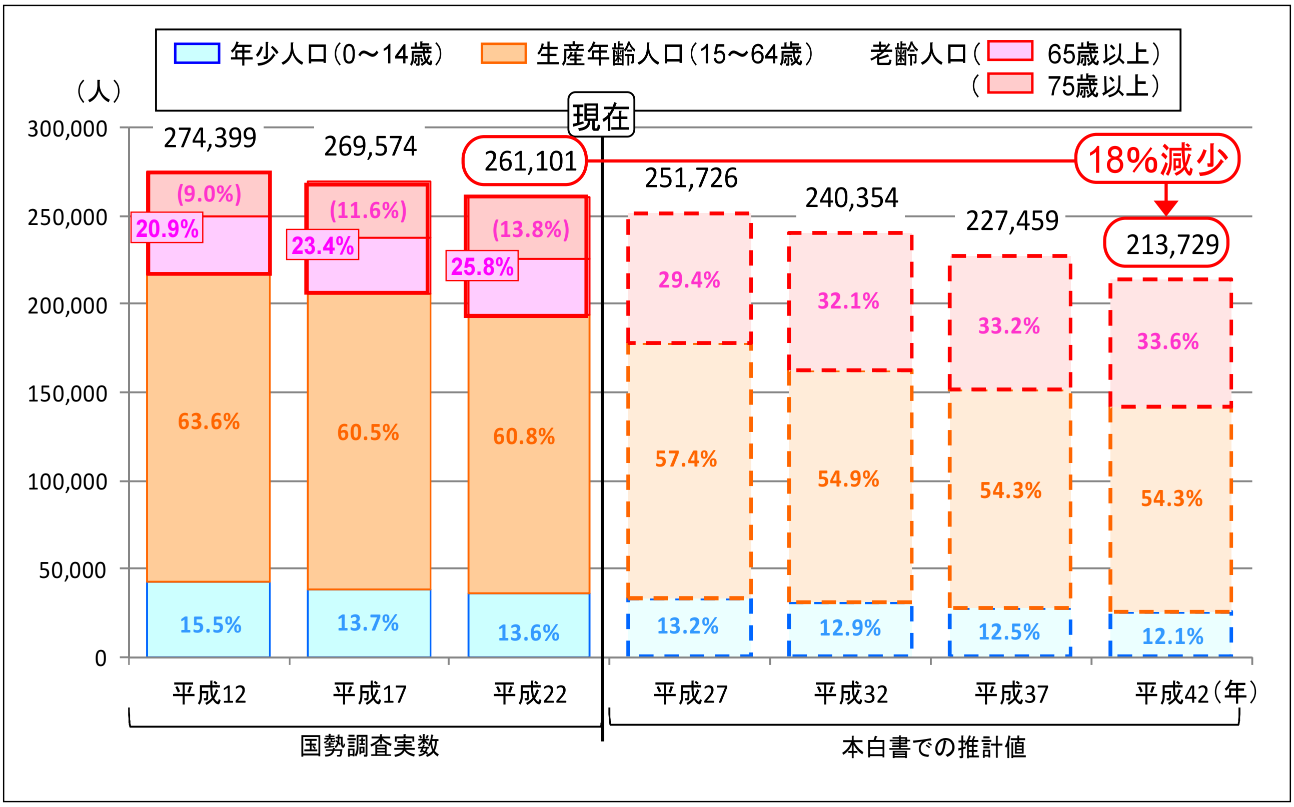
年齢構成においては、年齢階層別の年少人口（0～14 歳）比率が、平成 12 年の約 16%から平成 22 年で約 14%となっており、この 10 年間で約 2%減少しました。生産年齢人口（15～64 歳）比率は、平成 12 年の約 64%から平成 22 年には約 61%と約 3%減少しました。一方で、老齢人口（65 歳以上）比率は、平成 12 年の約 21%が平成 22 年は約 26%と約 5%増となりました。老齢人口は、市全体の人口が減る中で、構成比だけでなく人口も増加、さらに後期高齢者（75 歳以上）の比率についてみると、平成 12 年の約 9%から平成 22 年には約 14%と大きく増加し、こちらも人口増となっています。

年齢構成の動きは、長崎県全体とほぼ同じ比率、動きを示しますが、全国平均と比べると生産年齢人口が落ち込んで、老齢人口が多い傾向にあります。

なお、平成 12 年から平成 22 年の間に、平均年齢は 42.7 歳から 46.4 歳となっており、ここからも高齢化が進展していることが分かります。

平成 22 年度の国勢調査を基に将来の人口推計を行うと、人口はこのまま減少傾向が続き、平成 42 年には 21.4 万人にまで約 18%減少すると予測されています。年齢階層別では、生産年齢人口比率が約 61%から約 54%に大幅に減少すると同時に、老齢人口比率が約 26%から約 34%と急速に高齢化が進むことが予測されています。

図表　人口推移（佐世保市全体）



※平成 12 年から平成 22 年までの総人口は、国勢調査によるもの。
※平成 27 年以降の将来人口は、平成 22 年国勢調査を基準としたコーホート変化率法による推計。（以下、人口推計については同）

（２）人口構成の変化

下図は、佐世保市全体の人口推計結果です。

平成 12 年から平成 22 年の 10 年間をみると、10 年間で約 1.3 万人減少（5%減少）しています。年齢階層別にみると、年少人口は微減、生産年齢人口は減少、老齢人口は増加していることが分かります。

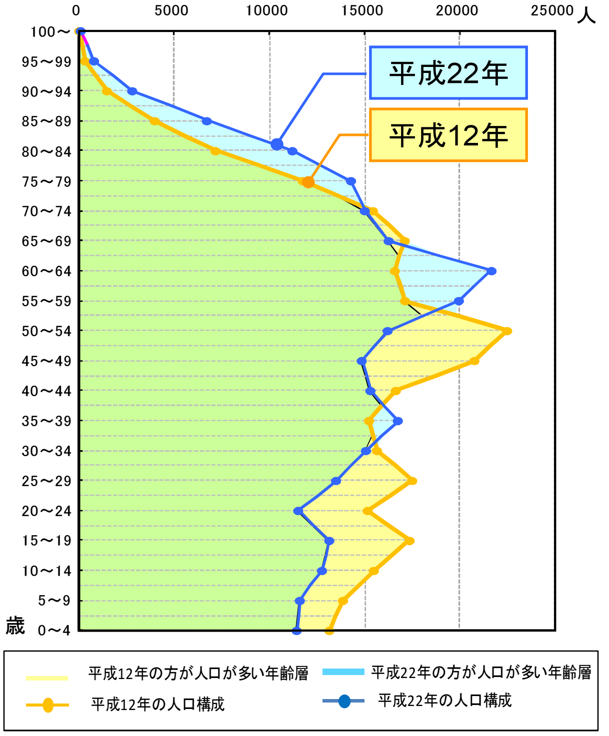
平成 22 年から平成 42 年の２０年間をみると､この先 20 年間で約 4.7 万人減少（18%減少）すると想定され、この 10 年間よりも、さらに減少が進んでいきます。5 歳階級別にみると、70 歳以下は、全ての年齢層で減少します。

図表　５歳階級別の人口推移（佐世保市全体）

過去⇒現在

2000（H12）年 ⇒ 2010（H22）年

2000年（H12年）	2010年（H22年）	人口増減	増減率
274,399人	261,101人	−13,298人	−4.8%

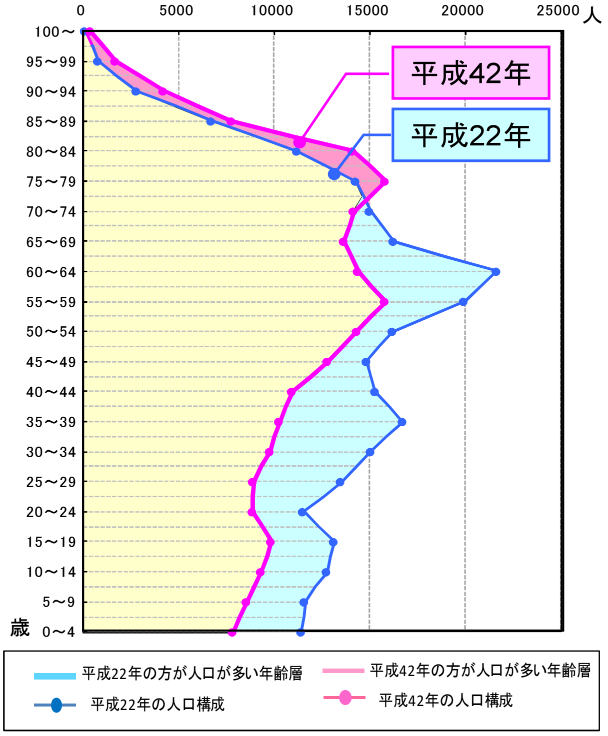


	2000年（H12年）	2010年（H22年）	人口増減 構成比増減
老齢人口	57,357人	67,259人	+9,902人
（65歳～）	20.9%	25.8%	+4.9
生産年齢人口	174,524人	158,002人	−16,522人
（15～64歳）	63.6%	60.5%	−3.1
年少人口	42,518人	35,815人	−6,703人
（0～14歳）	15.5%	13.7%	−1.8

現在⇒将来

2010（H22）年 ⇒ 2030（H42）年

2010年（H22年）	2030年（H42年）	人口増減	増減率
261,101人	213,729人	−47,372人	−18.1%



	2010年（H22年）	2030年（H42年）	人口増減 構成比増減
老齢人口	67,259人	71,907人	+4,648人
（65歳～）	25.8%	33.6%	+7.9
生産年齢人口	158,002人	116,050人	−41,952人
（15～64歳）	60.5%	54.3%	−6.2
年少人口	35,815人	25,772人	−10,043人
（0～14歳）	13.7%	12.1%	−1.7

※年齢不詳人口を５歳階級ごとに按分しているため、総人口と年齢階層毎の合計値とは一致しません。

４．地域の将来人口と特性

（１）これまでの合併の経緯

佐世保市は、平成 17 年に旧吉井町、旧世知原町と、平成 18 年に旧小佐々町、旧宇久町と合併し、さらに平成 22 年には、旧江迎町、旧鹿町町と合併しました。その結果、市域は 1.7 倍に拡大しました。

図表　合併経緯

近年の合併等経緯

		（面積）	（人口）	（人口密度）
	平成17年合併前	248.44 ㎢	239 千人	963人/㎢
平成17年4月	吉井町、世知原町と合併	307.54	248	807
平成18年3月	小佐々町、宇久町と合併	363.99	256	704
平成22年3月	江迎町、鹿町町と合併	426.41（1.7倍）	261（1.1倍）	612

（出典：平成２３年版市統計書（面積）、平成２２年国勢調査（人口））

（２）６エリア・１８地域の人口

①　エリア及び地域区分の考え方

佐世保市は、「佐世保市都市計画マスタープラン」においては、より分かりやすく地域間の連携・調和の方針を示すためいくつかの地域をまとめた６つのエリア設定と併せ、「身近な地域コミュニティ」を基本単位とした 18 の地域を設定しています。本白書においても、公共施設の適正配置等を検討していく上で、各地域の特性や地域間の連携・調和を考慮する必要があるため、都市計画マスタープランのエリア及び地域区分の考え方を基に、地域ごとの特性や公共施設の配置状況等の実態把握及び分析を行います。

エリア及び地域ごとに地勢、地域機能、産業の特性並びに人口構成等をみると、特性が異なることが分かります。また、同一エリア内でも、相浦港から約 50 分の黒島や佐世保港から約３時間の宇久島といった離島があります。

図表　エリア・地域区分（面積・人口・人口密度）

北部エリア
約151.42k㎡(35%)
27,043人(10%)
179人/k㎡

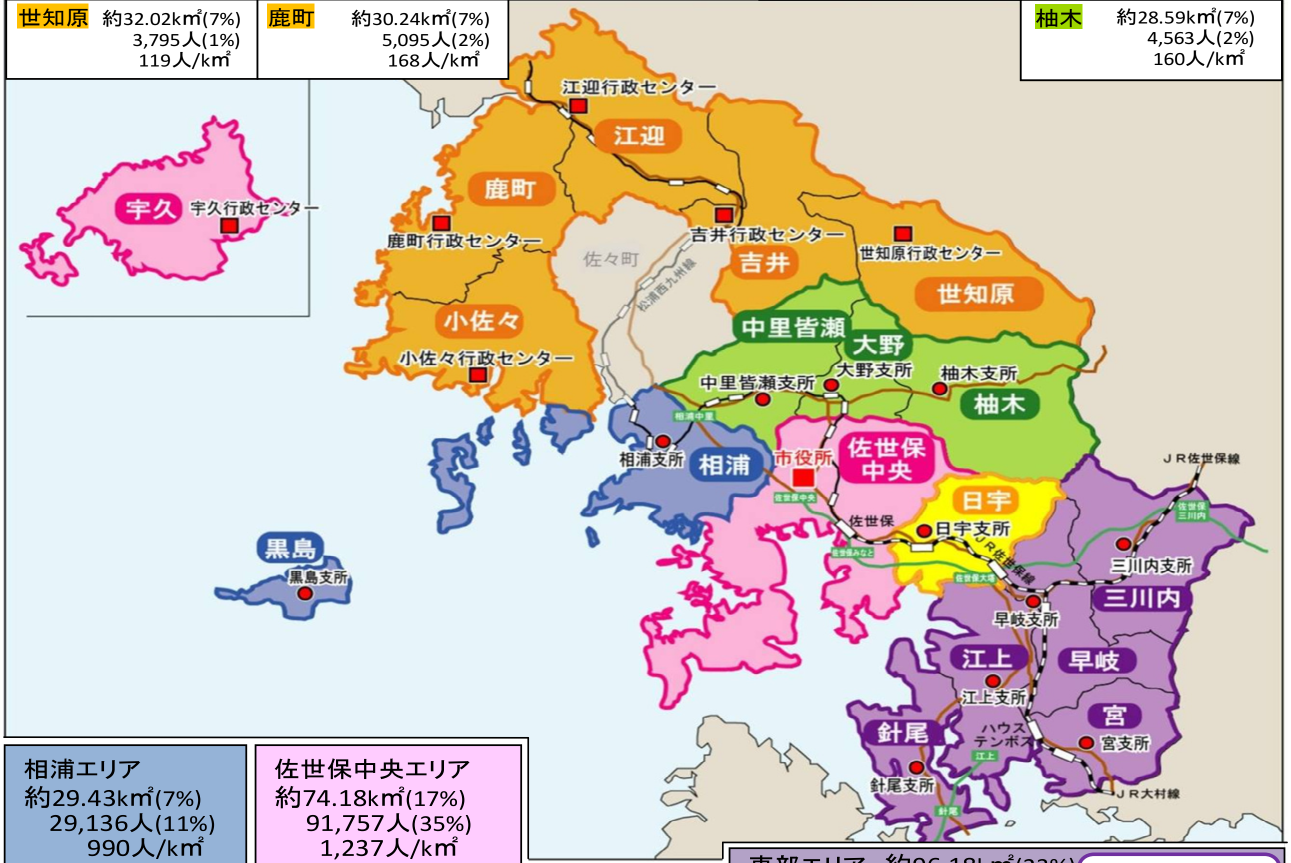
● 平成17年度以降に合併した5地域を対象としたエリア
● エリアの面積が最も広く、人口密度が最も低いエリア

地域	面積	人口	人口密度
吉井	約27.09k㎡(6%)	5,821人(2%)	215人/k㎡
小佐々	約30.00k㎡(7%)	6,630人(3%)	221人/k㎡
江迎	約32.07k㎡(8%)	5,702人(2%)	178人/k㎡
世知原	約32.02k㎡(7%)	3,795人(1%)	119人/k㎡
鹿町	約30.24k㎡(7%)	5,095人(2%)	168人/k㎡

中北部エリア
約59.83k㎡(14%)
34,902人(13%)
583人/k㎡

● 住宅地や商業地が集積し、交通機能拠点である大野地域を中心としたエリア

地域	面積	人口	人口密度
中里皆瀬	約20.49k㎡(5%)	11,428人(4%)	558人/k㎡
大野	約10.75k㎡(2%)	18,911人(7%)	1,759人/k㎡
柚木	約28.59k㎡(7%)	4,563人(2%)	160人/k㎡



相浦エリア
約29.43k㎡(7%)
29,136人(11%)
990人/k㎡

● 住宅が集積し、交通機能拠点がある相浦地域と、相浦港からフェリーで約50分の黒島（離島）で構成されるエリア

地域	面積	人口	人口密度
相浦	約24.45k㎡(6%)	28,598人(11%)	1,170人/k㎡
黒島	約4.98k㎡(1%)	538人(0.2%)	108人/k㎡

佐世保中央エリア
約74.18k㎡(17%)
91,757人(35%)
1,237人/k㎡

● 市の中心部がある佐世保中央地域と、佐世保港からフェリーで約3時間の宇久島（離島）で構成されるエリア

地域	面積	人口	人口密度
佐世保中央	約47.78k㎡(11%)	89,166人(34%)	1,866人/k㎡
宇久	約26.40k㎡(6%)	2,591人(1%)	98人/k㎡

日宇エリア
約16.85k㎡(4%)
27,414人(11%)
1,627人/k㎡

● 住宅地や商業・工業地等が集積したエリア
● 大型の商業施設があり、他の地域からの流入が多い

東部エリア　約96.18k㎡(23%)
50,849人(20%)
529人/k㎡

● 住宅地や商業・工業地等が集積した早岐地域を中心としたエリア
● 大型観光施設を有しており、市外からの流入が多い

地域	面積	人口	人口密度
針尾	約15.17k㎡(3%)	2,737人(1%)	180人/k㎡
早岐	約20.21k㎡(5%)	33,956人(13%)	1,680人/k㎡
江上	約19.37k㎡(5%)	6,866人(3%)	354人/k㎡
宮	約15.43k㎡(4%)	3,128人(1%)	203人/k㎡
三川内	約26.00k㎡(6%)	4,162人(2%)	160人/k㎡

（人口：平成 22 年国勢調査）

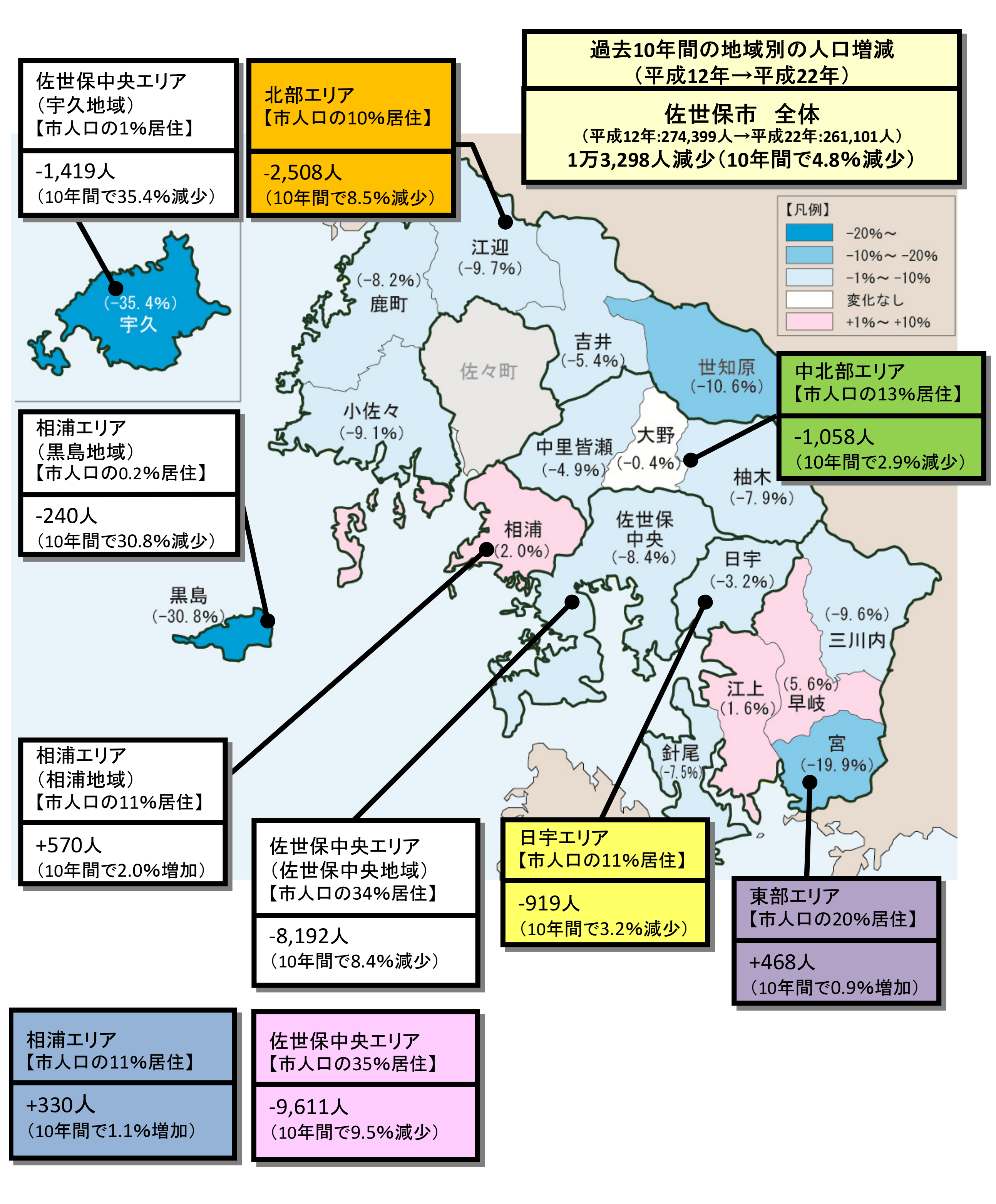
②　エリア・地域別人口

１）人口変化

平成 12 年から平成 22 年の 10 年間の人口変化をみると、6 エリア中４エリアで約 3%～10%人口が減少しています。相浦エリア及び東部エリアは、ほぼ横ばいとなっています。

18 地域別では、東部エリアの早岐地域及び江上地域、相浦エリアの相浦地域のみ増加しています。また、減少地域の中でも、東部エリアの宮地域は減少率が約 20%、離島の宇久地域、黒島地域は減少率が 30%以上と大きく人口減少が進行しています。

図表　エリア・地域別の人口変化（過去１０年：平成 12 年→平成 22 年）

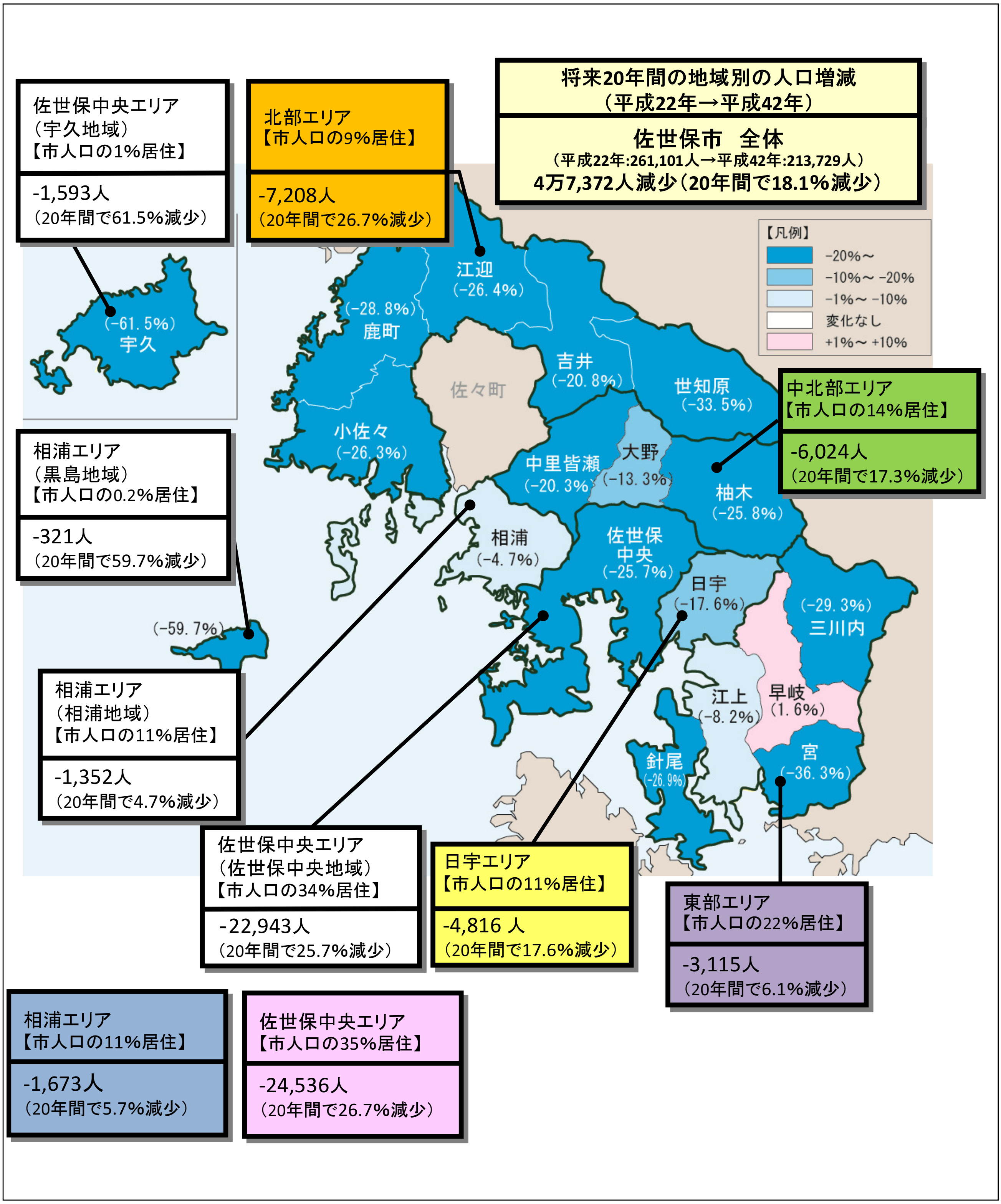


さらに、今後 20 年間の人口変化をみると以下のようになります。

６エリアでは、全てのエリアで人口が減少すると予測されています。

18 地域別の特徴としては、人口増は早岐地域のみであり、13 地域が 20%以上の減少であり、そのうち４地域は、30%を超える人口減となり、さらに人口減少が進行すると予測されます。

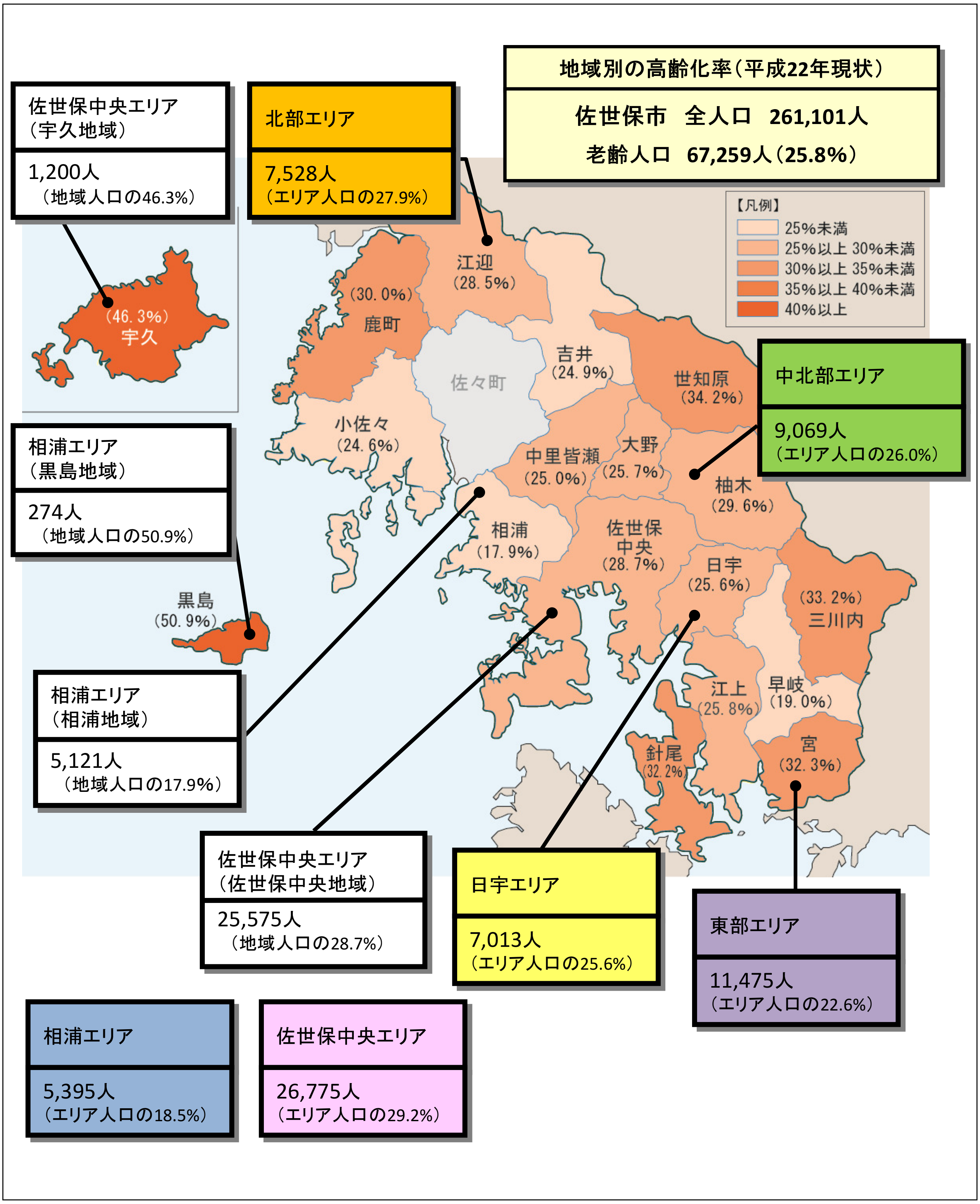
図表　エリア・地域別の人口変化（将来推計：平成 22 年→平成 42 年）



２）高齢化率の変化（老齢人口：65 歳以上）

平成 22 年国勢調査の時点で、既に相浦地域及び早岐地域を除き超高齢社会（老齢人口比率 21％超）となっています。特に、離島の宇久地域、黒島地域では人口の半数前後が老齢人口となっています。

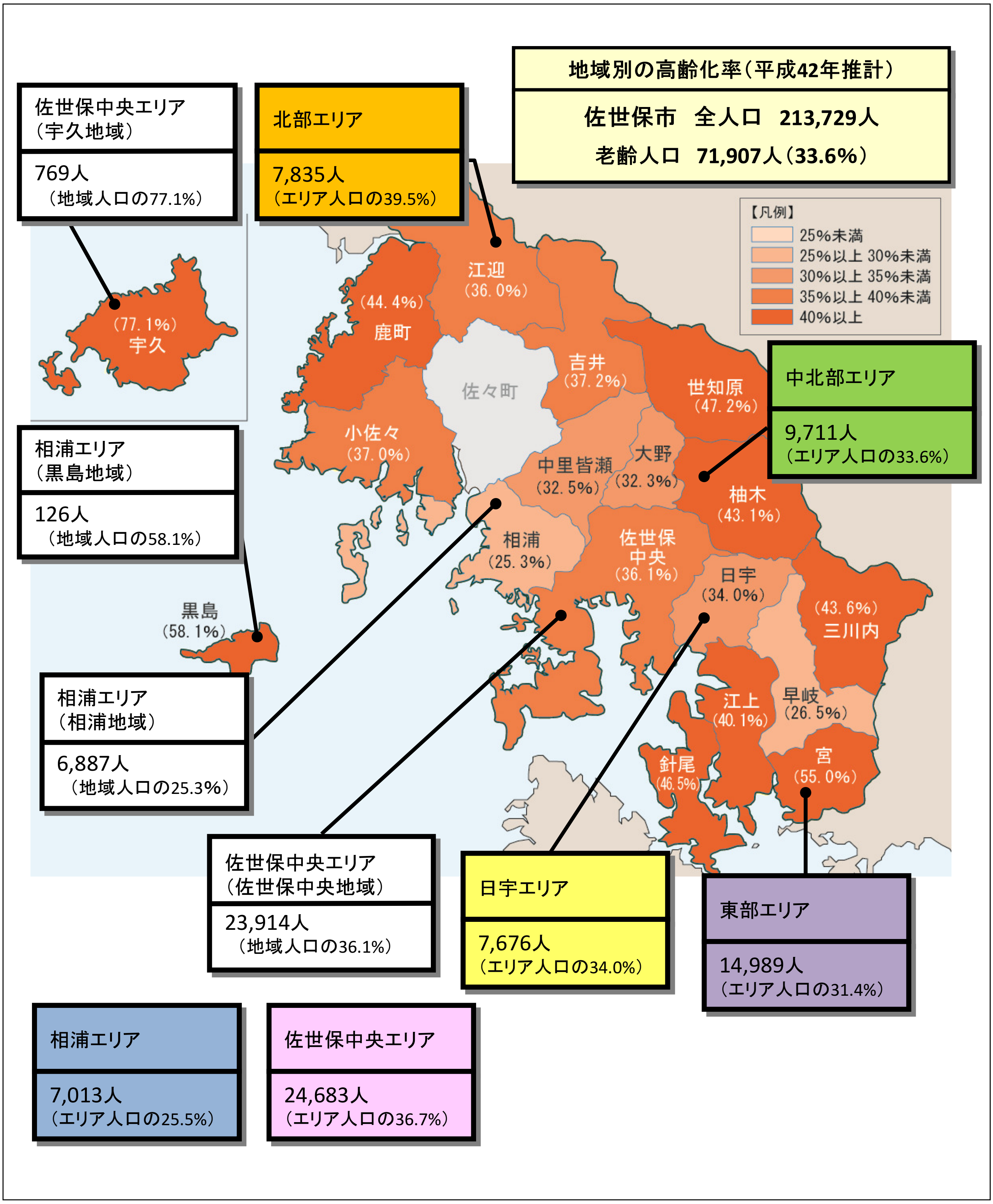
図表　エリア・地域別の高齢化率（平成 22 年）



平成 42 年には、さらに高齢化は進み、全ての地域で老齢人口比率が 21％を越える超高齢社会となります。

さらに、老齢人口比率 30％以下の地域は相浦地域と早岐地域のみとなり、黒島地域と宮地域では約６割、宇久地域に至っては約８割が老齢人口となります。

図表　エリア・地域別の高齢化率（平成 42 年推計）

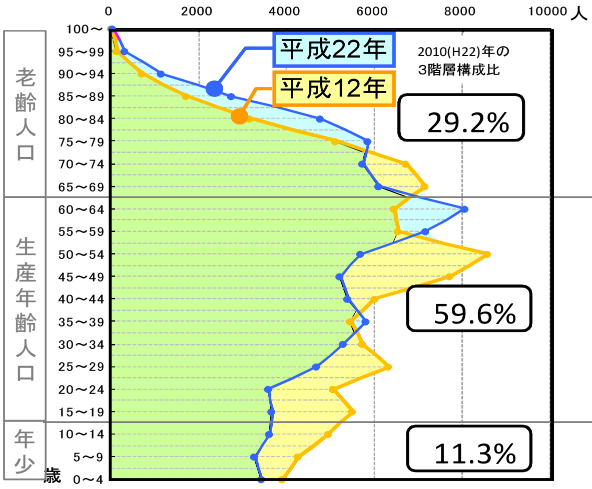


［参考］６エリア別将来人口推計結果

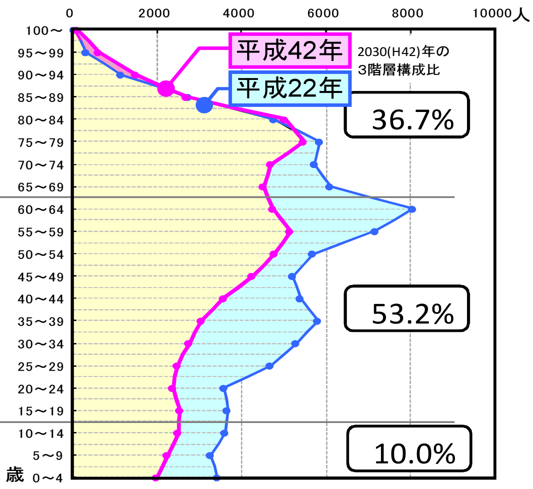
2000(H12)年 ⇒ 2010(H22)年 ／ **2010(H22)年 ⇒ 2030(H42)年**

佐世保中央エリア

2000年（H12年）	2010年（H22年）	人口増減	増減率
101,368人	91,757人	−9,611人	−9.5%

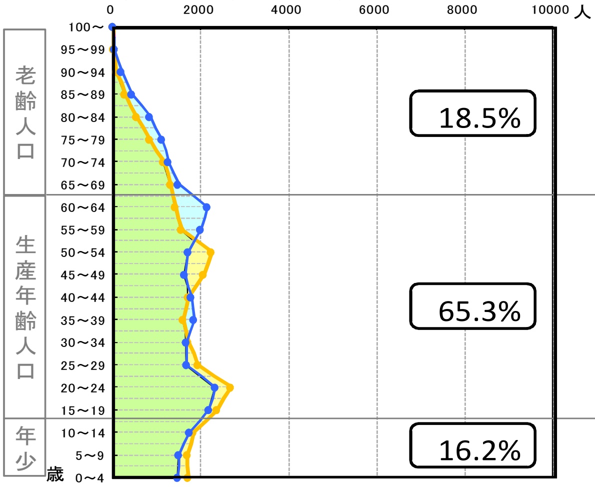


2010年（H22年）	2030年（H42年）	人口増減	増減率
91,757人	67,221人	−24,536人	−26.7%

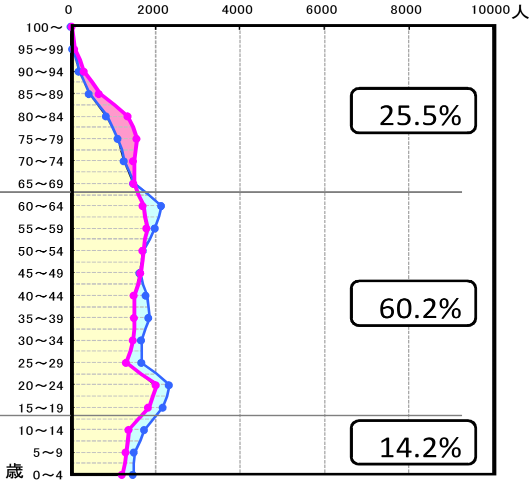


相浦エリア

2000年（H12年）	2010年（H22年）	人口増減	増減率
28,806人	29,136人	+330人	1.1%

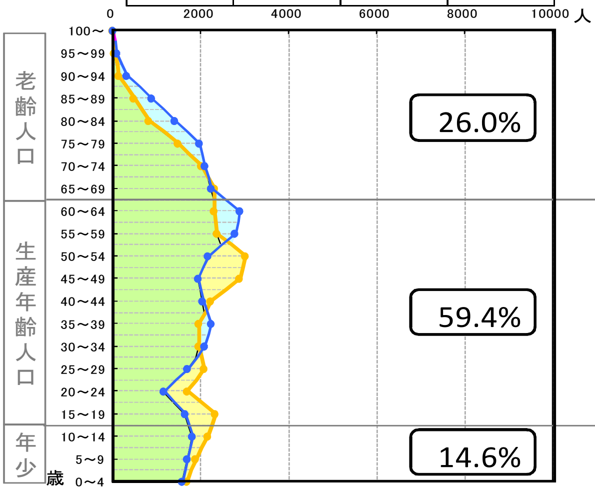


2010年（H22年）	2030年（H42年）	人口増減	増減率
29,136人	27,463人	−1,673人	−5.7%

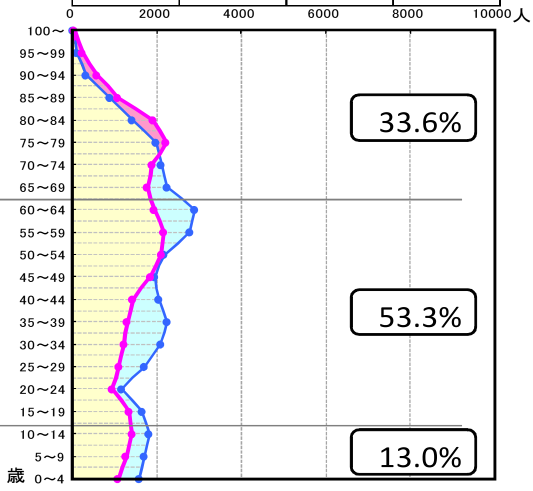


中北部エリア

2000年（H12年）	2010年（H22年）	人口増減	増減率
35,960人	34,902人	−1,058人	−2.9%



2010年（H22年）	2030年（H42年）	人口増減	増減率
34,902人	28,878人	−6,024人	−17.3%



平成12年の方が人口が多い年齢層　平成22年の方が人口が多い年齢層
平成12年の人口構成　平成22年の人口構成

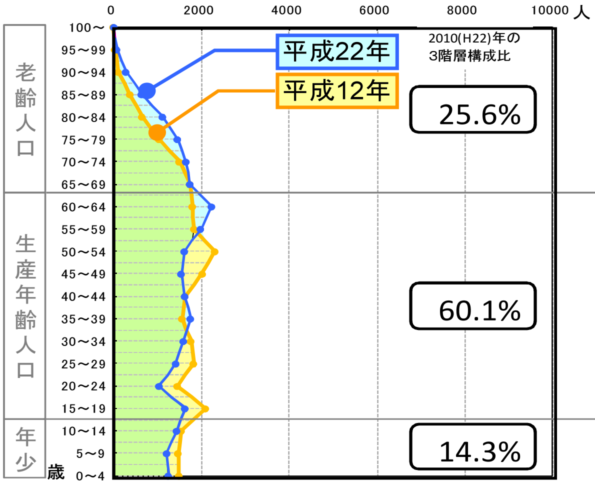
平成22年の方が人口が多い年齢層　平成42年の方が人口が多い年齢層
平成22年の人口構成　平成42年の人口構成

	2000(H12)年 ⇒ 2010(H22)年	2010(H22)年 ⇒ 2030(H42)年

日宇エリア

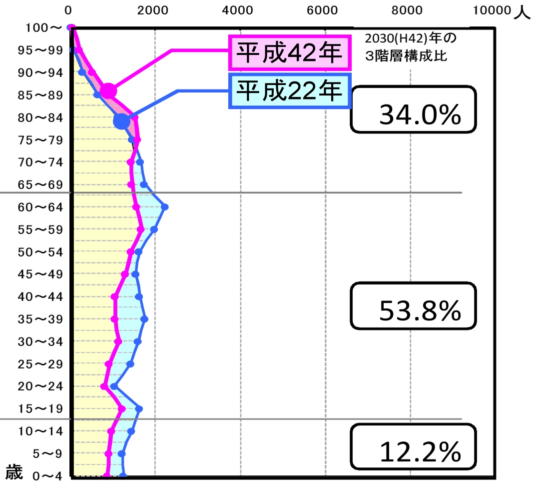
2000(H12)年 ⇒ 2010(H22)年

2000年（H12年）	2010年（H22年）	人口増減	増減率
28,333人	27,414人	−919人	−3.2%



2010(H22)年 ⇒ 2030(H42)年

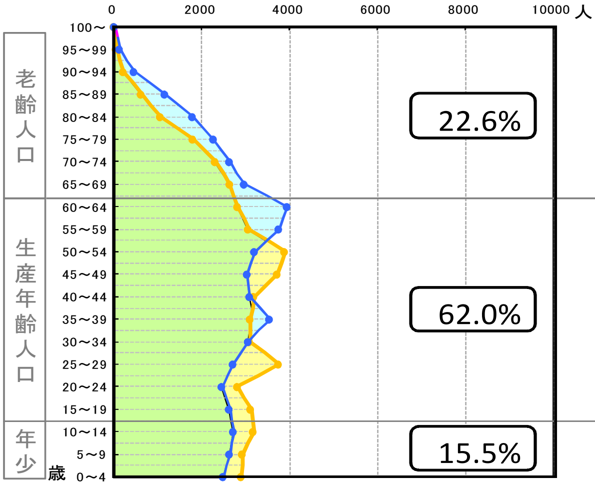
2010年（H22年）	2030年（H42年）	人口増減	増減率
27,414人	22,598人	−4,816人	−17.6%



東部エリア

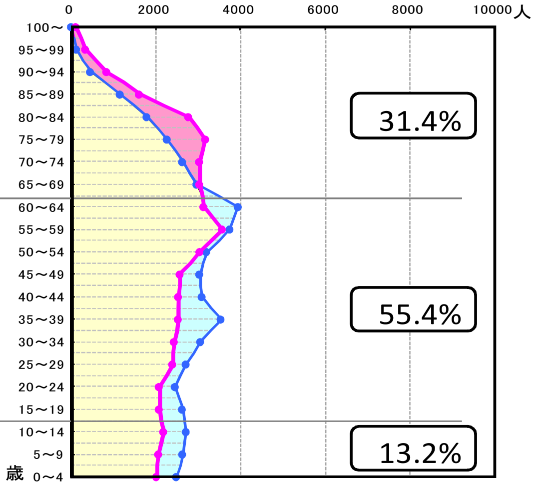
2000(H12)年 ⇒ 2010(H22)年

2000年（H12年）	2010年（H22年）	人口増減	増減率
50,381人	50,849人	+468人	0.9%



2010(H22)年 ⇒ 2030(H42)年

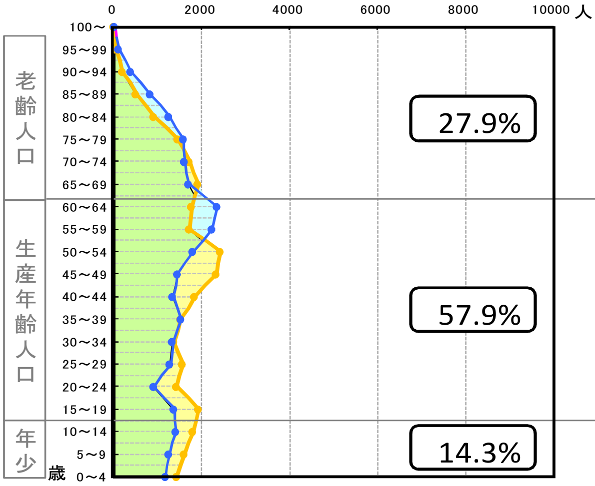
2010年（H22年）	2030年（H42年）	人口増減	増減率
50,849人	47,734人	−3,115人	−6.1%



北部エリア

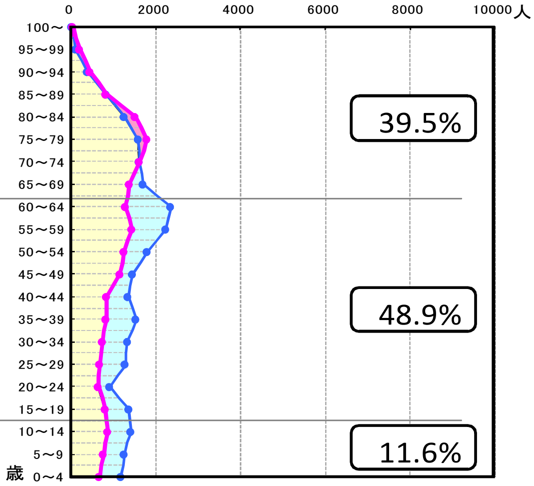
2000(H12)年 ⇒ 2010(H22)年

2000年（H12年）	2010年（H22年）	人口増減	増減率
29,551人	27,043人	−2,508人	−8.5%



2010(H22)年 ⇒ 2030(H42)年

2010年（H22年）	2030年（H42年）	人口増減	増減率
27,043人	19,835人	−7,208人	−26.7%



平成12年の方が人口が多い年齢層　平成22年の方が人口が多い年齢層
平成12年の人口構成　平成22年の人口構成

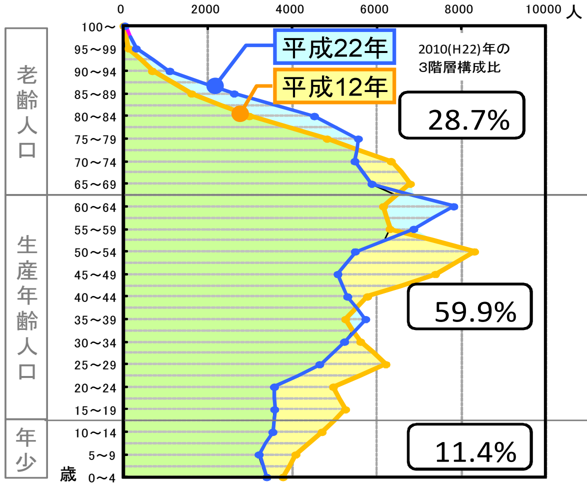
平成22年の方が人口が多い年齢層　平成42年の方が人口が多い年齢層
平成22年の人口構成　平成42年の人口構成

［参考］18 地域別将来人口推計結果

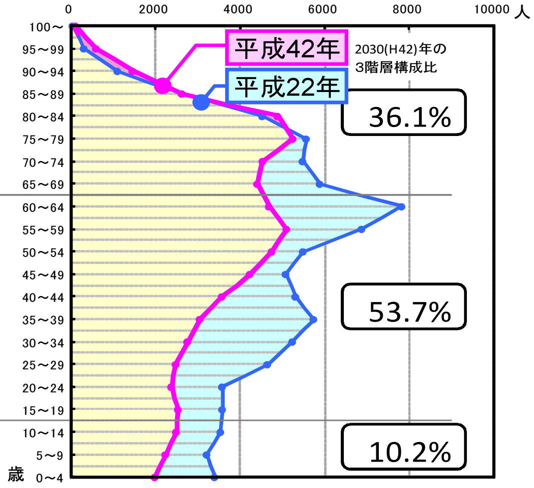
2000（H12）年 ⇒ 2010（H22）年　／　2010（H22）年 ⇒ 2030（H42）年

佐世保中央エリア（佐世保中央地域）

2000年（H12年）	2010年（H22年）	人口増減	増減率
97,358人	89,166人	−8,192人	−8.4%

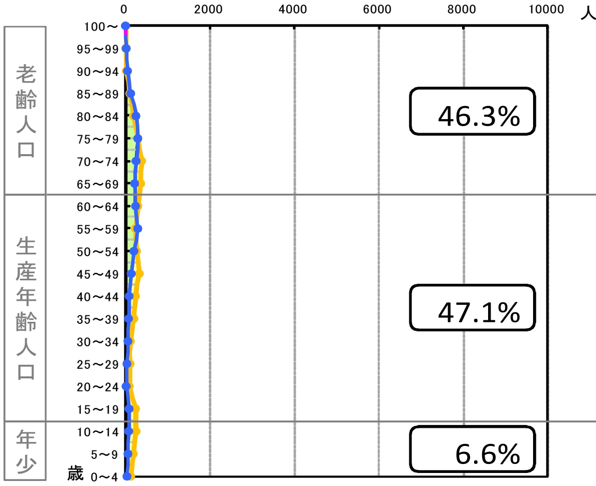


2010年（H22年）	2030年（H42年）	人口増減	増減率
89,166人	66,223人	−22,943人	−25.7%

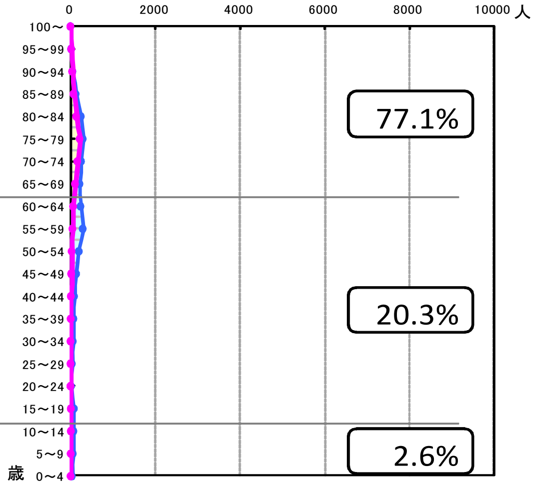


佐世保中央エリア（宇久地域）

2000年（H12年）	2010年（H22年）	人口増減	増減率
4,010人	2,591人	−1,419人	−35.4%

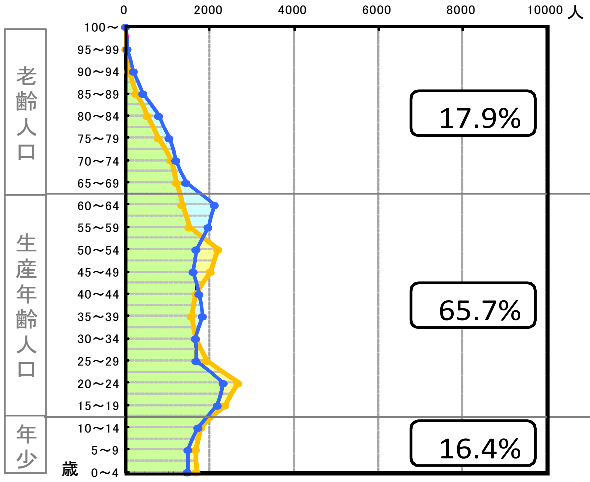


2010年（H22年）	2030年（H42年）	人口増減	増減率
2,591人	998人	−1,593人	−61.5%

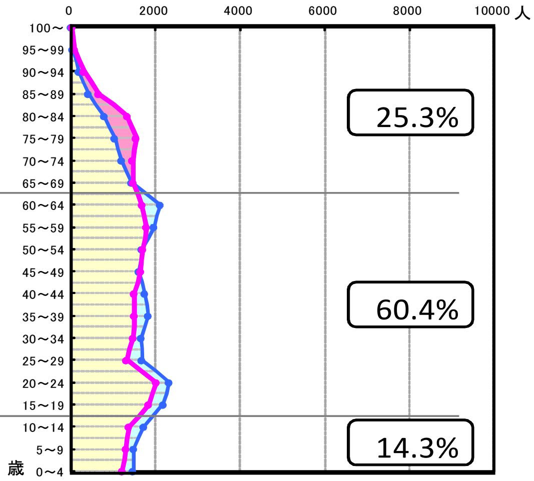


相浦エリア（相浦地域）

2000年（H12年）	2010年（H22年）	人口増減	増減率
28,028人	28,598人	+570人	2.0%



2010年（H22年）	2030年（H42年）	人口増減	増減率
28,598人	27,246人	−1,352人	−4.7%



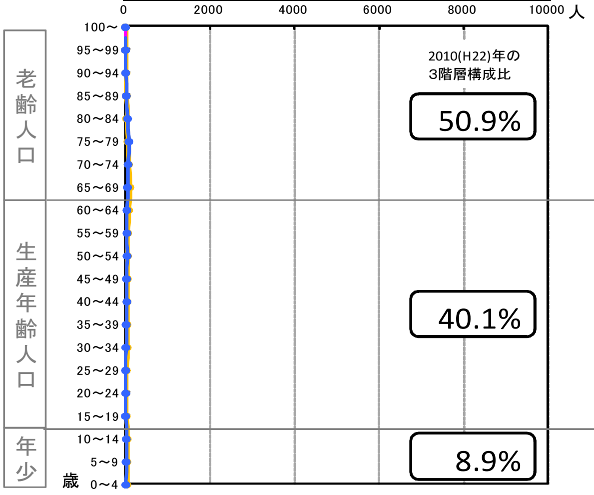
平成12年の方が人口が多い年齢層　平成22年の方が人口が多い年齢層
平成12年の人口構成　平成22年の人口構成

平成22年の方が人口が多い年齢層　平成42年の方が人口が多い年齢層
平成22年の人口構成　平成42年の人口構成

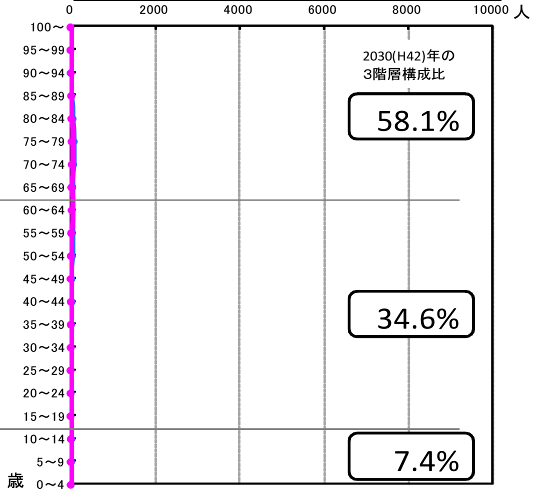
2000(H12)年 ⇒ 2010(H22)年　　**2010(H22)年 ⇒ 2030(H42)年**

相浦エリア（黒島地域）

2000年（H12年）	2010年（H22年）	人口増減	増減率
778人	538人	-240人	-30.8%

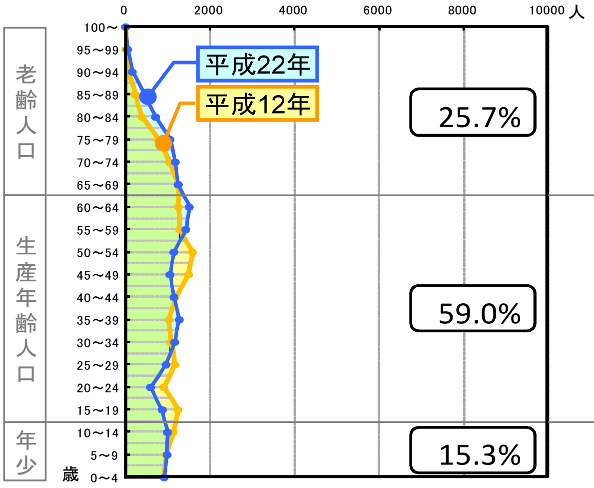


2010年（H22年）	2030年（H42年）	人口増減	増減率
538人	217人	-321人	-59.7%

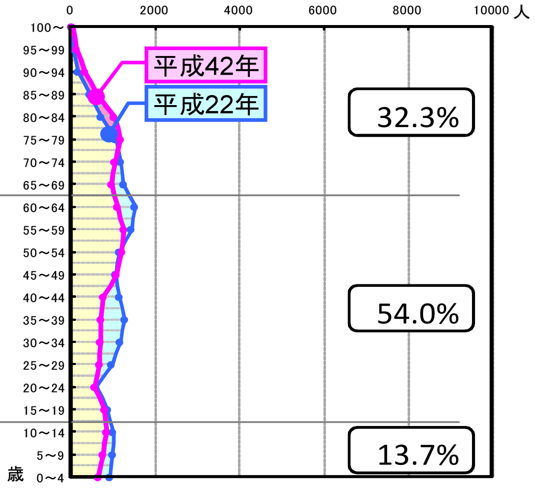


中北部エリア（大野地域）

2000年（H12年）	2010年（H22年）	人口増減	増減率
18,990人	18,911人	-79人	-0.4%

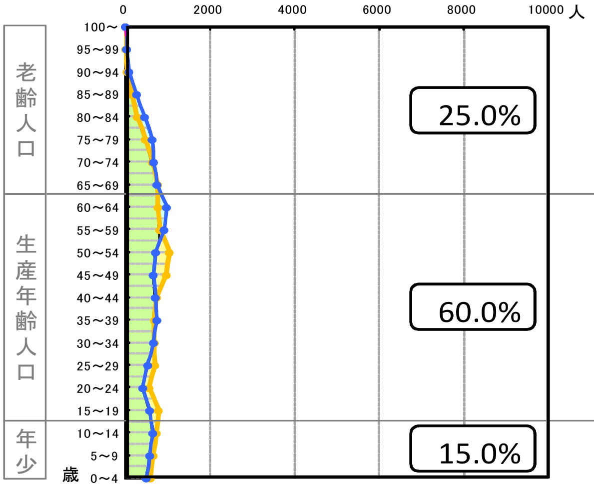


2010年（H22年）	2030年（H42年）	人口増減	増減率
18,911人	16,389人	-2,522人	-13.3%

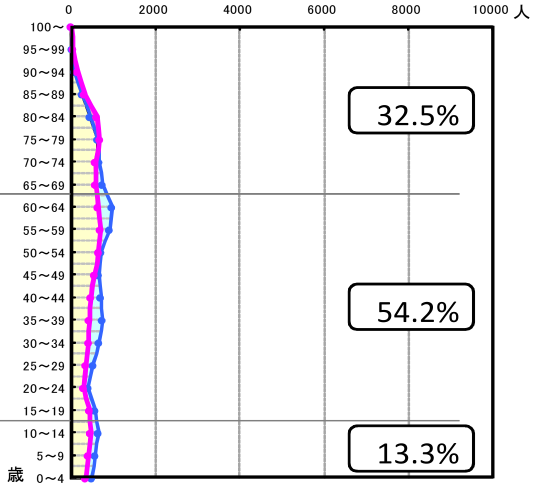


中北部エリア（中里皆瀬地域）

2000年（H12年）	2010年（H22年）	人口増減	増減率
12,015人	11,428人	-587人	-4.9%



2010年（H22年）	2030年（H42年）	人口増減	増減率
11,428人	9,104人	-2,324人	-20.3%



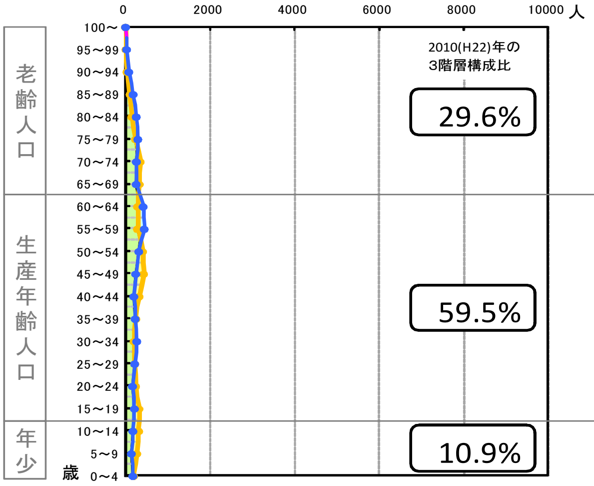
平成12年の方が人口が多い年齢層　平成22年の方が人口が多い年齢層
平成12年の人口構成　平成22年の人口構成

平成22年の方が人口が多い年齢層　平成42年の方が人口が多い年齢層
平成22年の人口構成　平成42年の人口構成

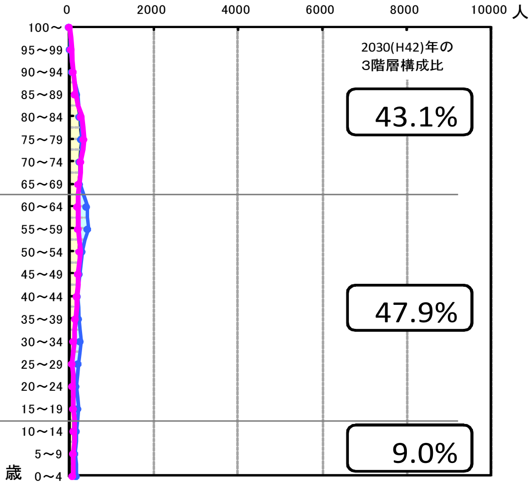
2000(H12)年 ⇒ 2010(H22)年 ／ 2010(H22)年 ⇒ 2030(H42)年

中北部エリア（柚木地域）

2000年（H12年）	2010年（H22年）	人口増減	増減率
4,955人	4,563人	-392人	-7.9%

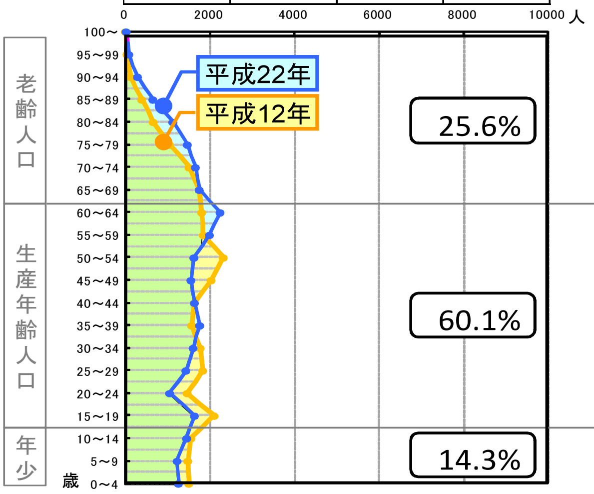


2010年（H22年）	2030年（H42年）	人口増減	増減率
4,563人	3,385人	-1,178人	-25.8%

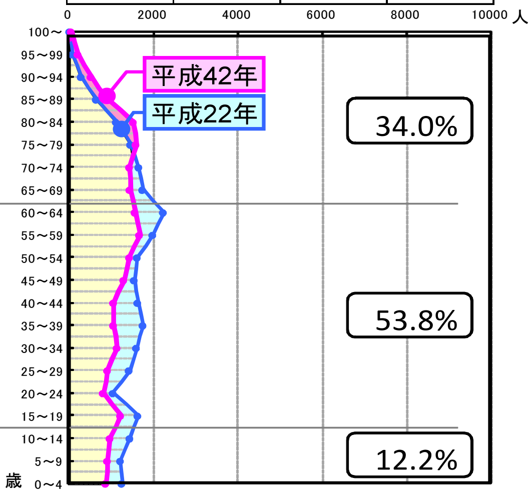


日宇エリア（日宇地域）

2000年（H12年）	2010年（H22年）	人口増減	増減率
28,333人	27,414人	-919人	-3.2%

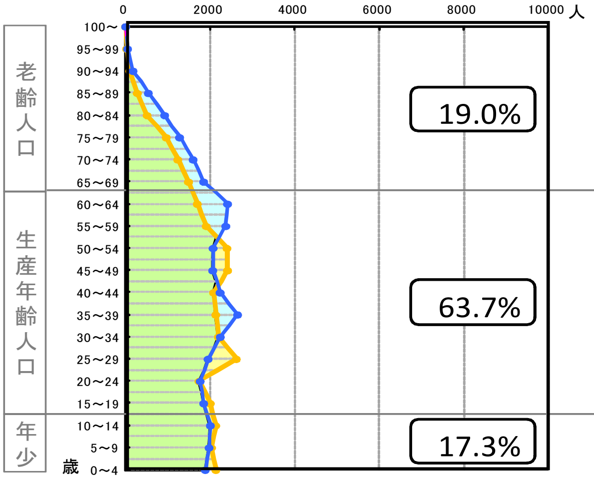


2010年（H22年）	2030年（H42年）	人口増減	増減率
27,414人	22,598人	-4,816人	-17.6%

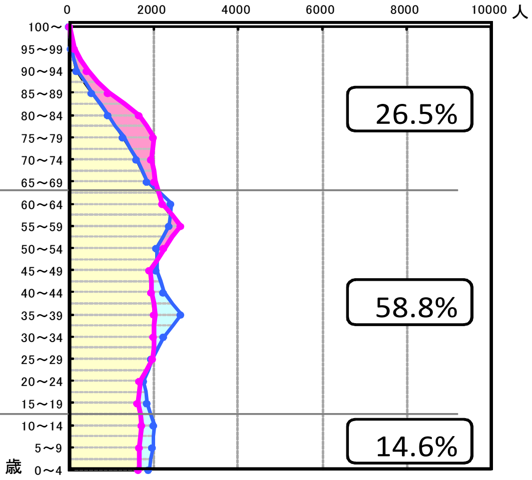


東部エリア（早岐地域）

2000年（H12年）	2010年（H22年）	人口増減	増減率
32,155人	33,956人	+1,801人	5.6%



2010年（H22年）	2030年（H42年）	人口増減	増減率
33,956人	34,495人	+539人	1.6%



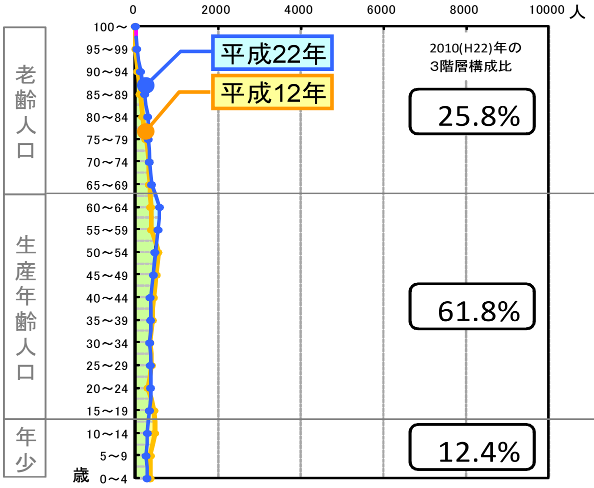
平成12年の方が人口が多い年齢層　平成22年の方が人口が多い年齢層
平成12年の人口構成　平成22年の人口構成

平成22年の方が人口が多い年齢層　平成42年の方が人口が多い年齢層
平成22年の人口構成　平成42年の人口構成

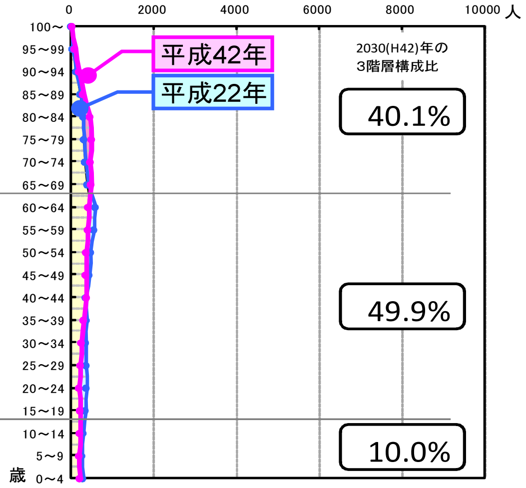
	2000(H12)年 ⇒ 2010(H22)年	2010(H22)年 ⇒ 2030(H42)年

東部エリア（江上地域）

2000年（H12年）	2010年（H22年）	人口増減	増減率
6,759人	6,866人	+107人	1.6%

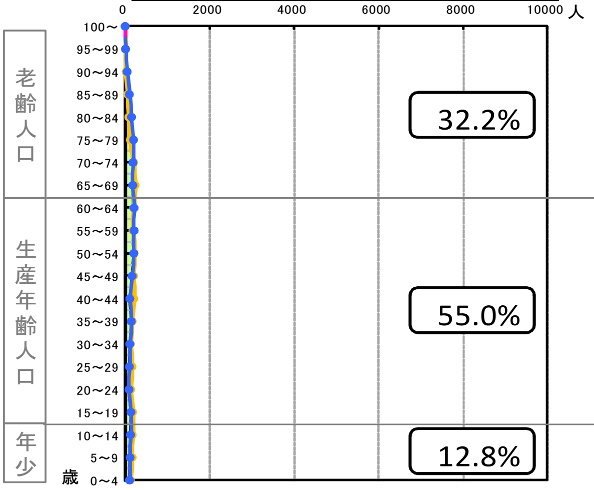


2010年（H22年）	2030年（H42年）	人口増減	増減率
6,866人	6,305人	−561人	−8.2%

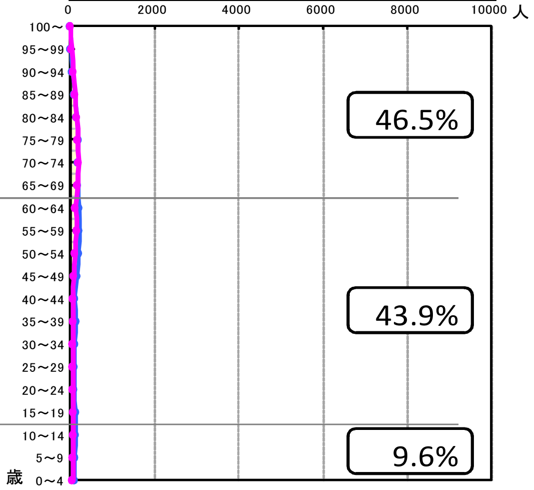


東部エリア（針尾地域）

2000年（H12年）	2010年（H22年）	人口増減	増減率
2,958人	2,737人	−221人	−7.5%

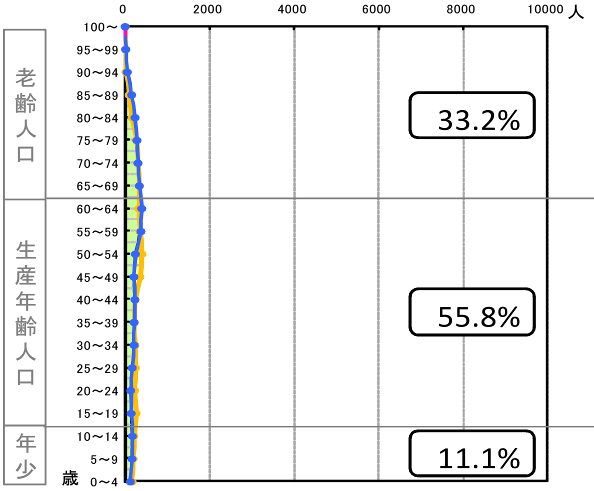


2010年（H22年）	2030年（H42年）	人口増減	増減率
2,737人	2,000人	−737人	−26.9%

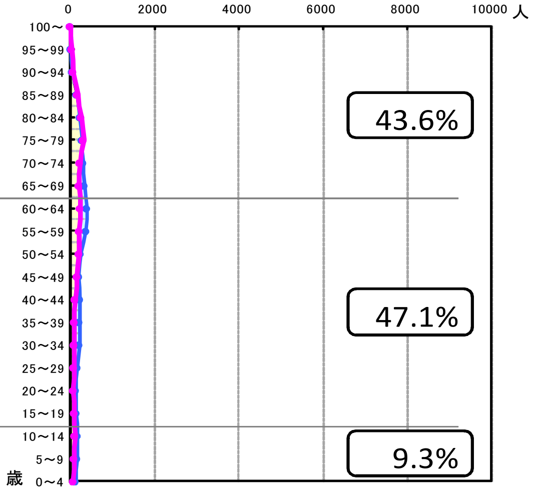


東部エリア（三川内地域）

2000年（H12年）	2010年（H22年）	人口増減	増減率
4,605人	4,162人	−443人	−9.6%



2010年（H22年）	2030年（H42年）	人口増減	増減率
4,162人	2,941人	−1,221人	−29.3%



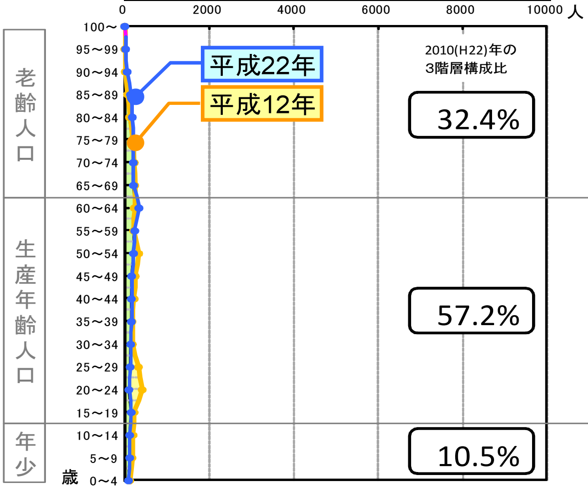
平成12年の方が人口が多い年齢層　平成22年の方が人口が多い年齢層
平成12年の人口構成　平成22年の人口構成

平成22年の方が人口が多い年齢層　平成42年の方が人口が多い年齢層
平成22年の人口構成　平成42年の人口構成

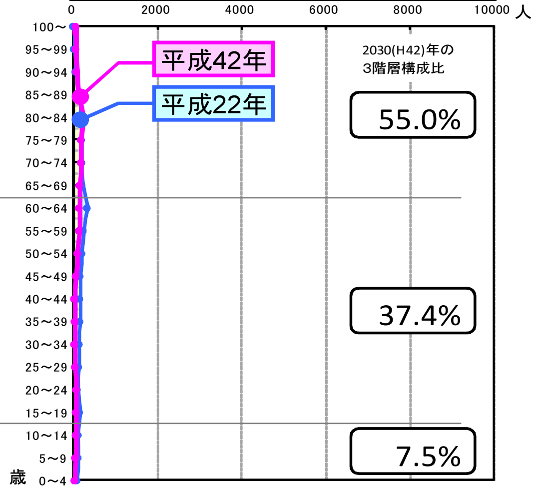
	2000(H12)年 ⇒ 2010(H22)年	2010(H22)年 ⇒ 2030(H42)年

東部エリア（宮地域）

2000年（H12年）	2010年（H22年）	人口増減	増減率
3,904人	3,128人	−776人	−19.9%

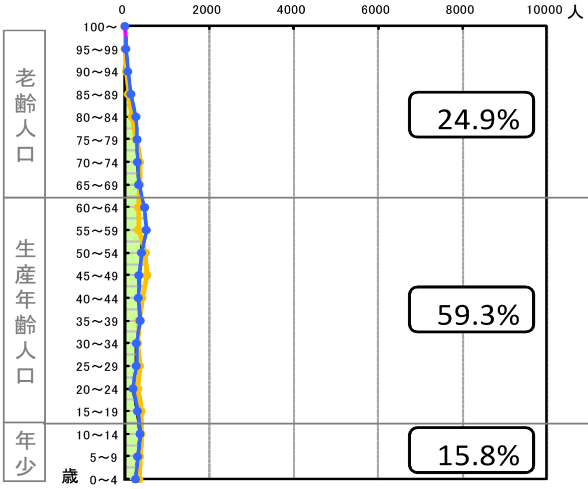


2010年（H22年）	2030年（H42年）	人口増減	増減率
3,128人	1,993人	−1,135人	−36.3%

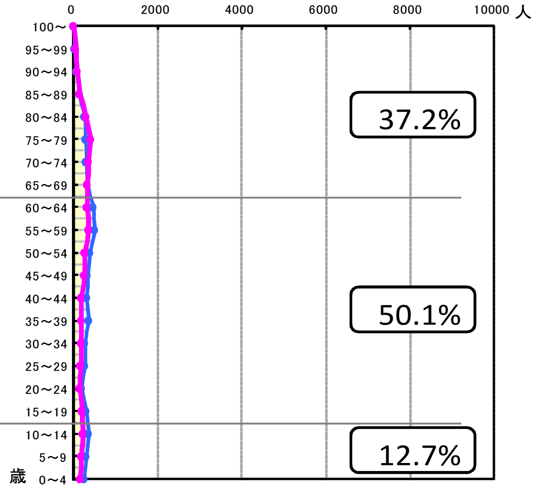


北部エリア（吉井地域）

2000年（H12年）	2010年（H22年）	人口増減	増減率
6,151人	5,821人	−330人	−5.4%

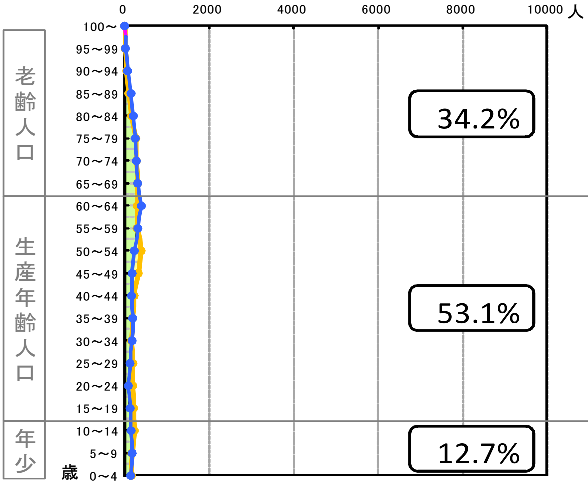


2010年（H22年）	2030年（H42年）	人口増減	増減率
5,821人	4,608人	−1,213人	−20.8%

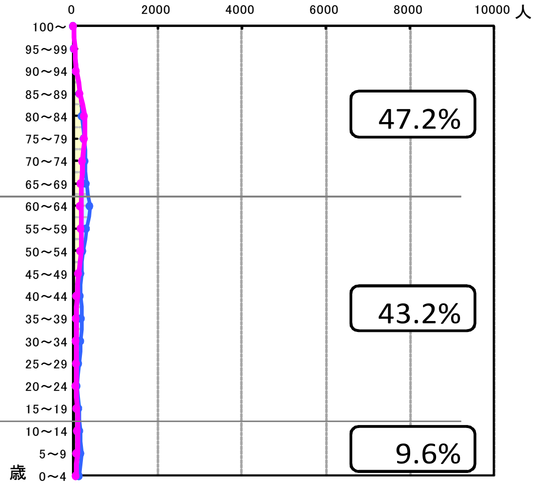


北部エリア（世知原地域）

2000年（H12年）	2010年（H22年）	人口増減	増減率
4,243人	3,795人	−448人	−10.6%



2010年（H22年）	2030年（H42年）	人口増減	増減率
3,795人	2,522人	−1,273人	−33.5%



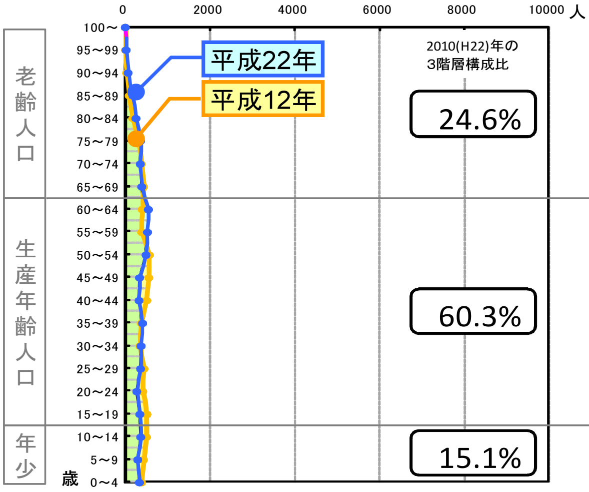
平成12年の方が人口が多い年齢層　平成22年の方が人口が多い年齢層
平成12年の人口構成　平成22年の人口構成

平成22年の方が人口が多い年齢層　平成42年の方が人口が多い年齢層
平成22年の人口構成　平成42年の人口構成

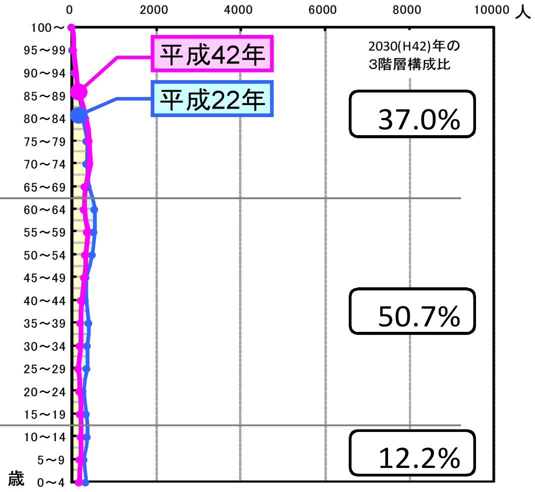
2000(H12)年 ⇒ 2010(H22)年　　2010(H22)年 ⇒ 2030(H42)年

北部エリア（小佐々地域）

2000年（H12年）	2010年（H22年）	人口増減	増減率
7,292人	6,630人	−662人	−9.1%

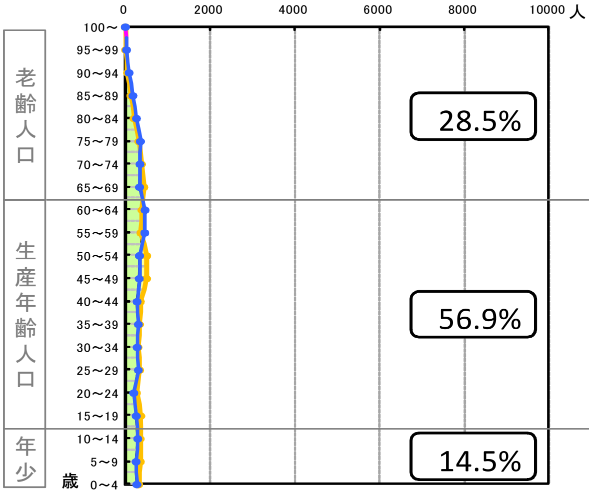


2010年（H22年）	2030年（H42年）	人口増減	増減率
6,630人	4,883人	−1,747人	−26.3%

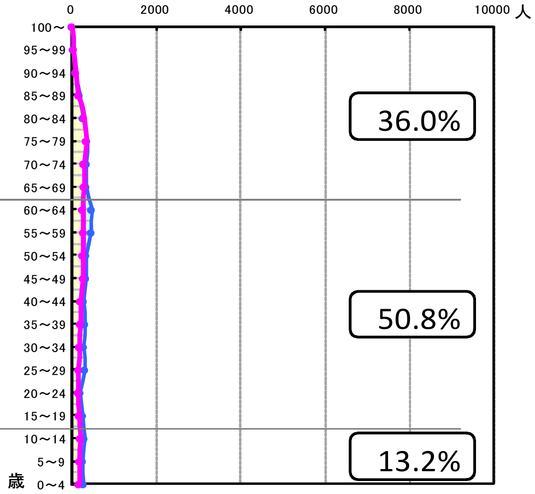


北部エリア（江迎地域）

2000年（H12年）	2010年（H22年）	人口増減	増減率
6,317人	5,702人	−615人	−9.7%

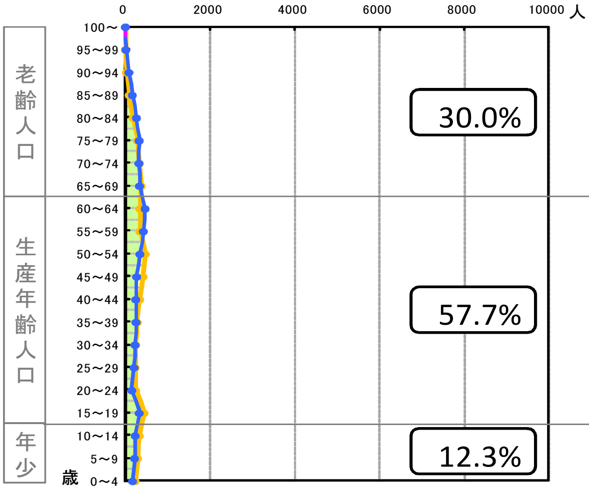


2010年（H22年）	2030年（H42年）	人口増減	増減率
5,702人	4,195人	−1,507人	−26.4%

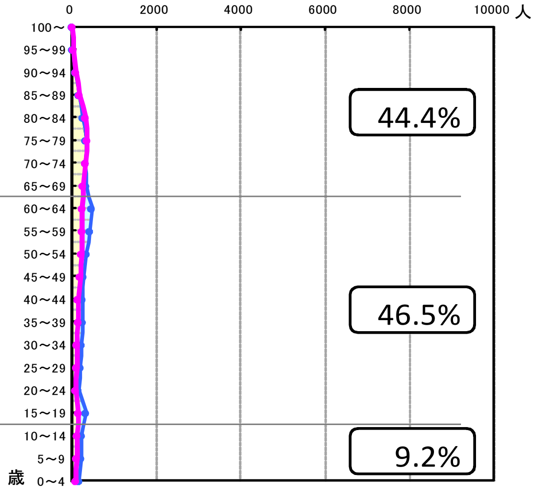


北部エリア（鹿町地域）

2000年（H12年）	2010年（H22年）	人口増減	増減率
5,548人	5,095人	−453人	−8.2%



2010年（H22年）	2030年（H42年）	人口増減	増減率
5,095人	3,627人	−1,468人	−28.8%



平成12年の方が人口が多い年齢層　平成22年の方が人口が多い年齢層
平成12年の人口構成　平成22年の人口構成

平成22年の方が人口が多い年齢層　平成42年の方が人口が多い年齢層
平成22年の人口構成　平成42年の人口構成

③　地域間の人口流動

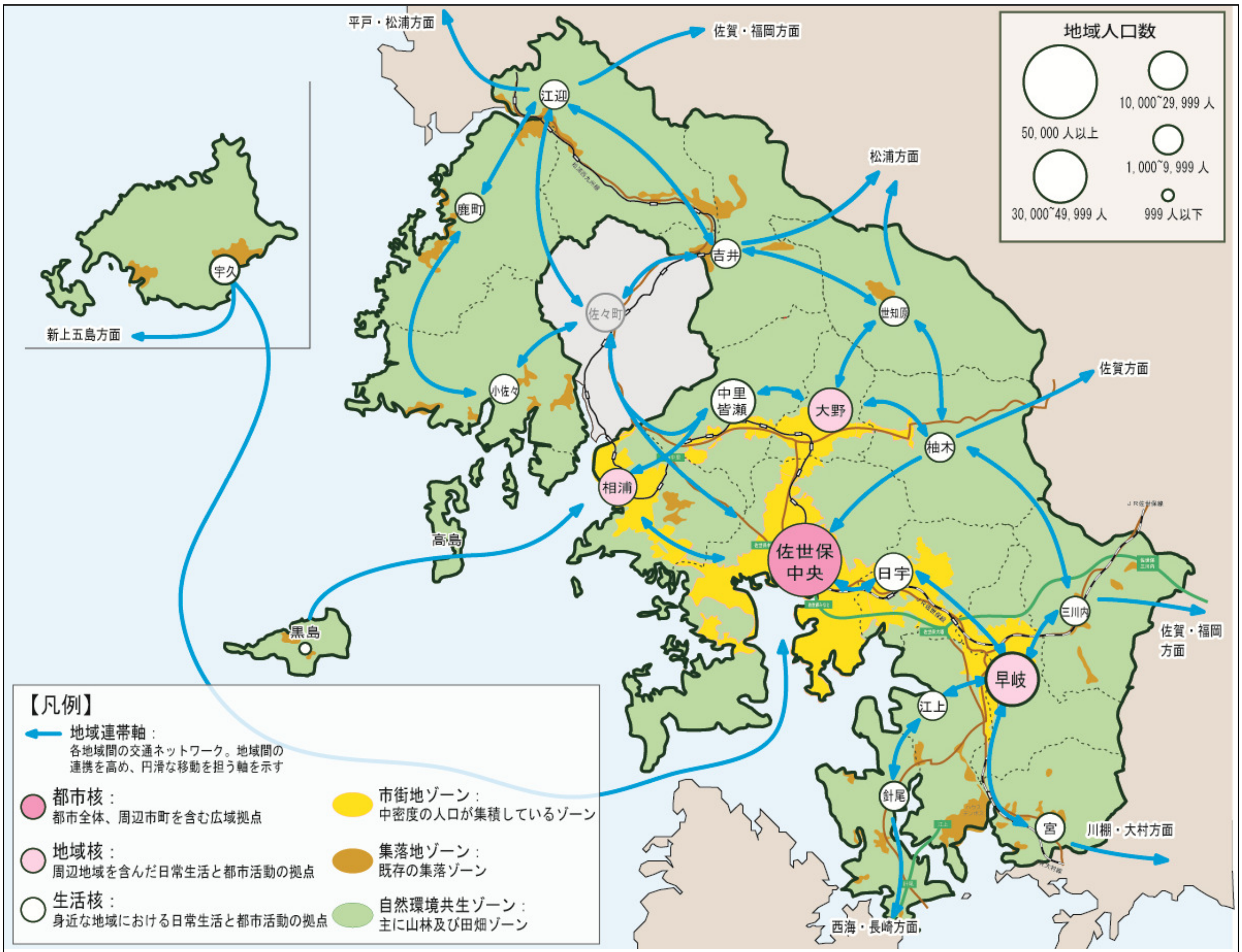
１）交通ネットワーク等の状況　※「佐世保市都市計画マスタープラン」より一部引用

　合併により市域が拡大した中で、今後は、それぞれの地域の連携を強化し、都市全体の一体性を確保することが求められます。今後の都市づくりにおいては、中心市街地への都市機能の集約を図りながら、周辺の各地域に必要な都市機能を配置し、地域間の連携によって都市全体の活力や魅力の維持・向上を目指す「多極が連携した都市構造」の形成を目指しています。

　佐世保市全体でみると、佐世保中央地域にある佐世保駅から市役所を含む市街地は、市全体及び周辺市町を含む広域的な圏域における中核を担う拠点（都市核）となっており、施設が最も集積した高密で高質な市街地で、公共交通による都市内外への移動、乗り継ぎが便利な地域となっています。宇久島へは、佐世保港からのフェリーでつながっています。

　また、相浦、大野、早岐地域にある、支所や駅周辺を中心とした中密度な市街地は、周辺地域を含んだ圏域における日常生活と都市活動の拠点（地域核）となっており、公共交通による移動が円滑で乗り継ぎができ、交通の要所となっています。黒島へは、相浦港から高島を経由して行く事ができます。

図表　地域間の人口流動イメージ



※都市マスタープランでは、主要都市軸と地域連携軸を掲載していますが、本白書では、各地域間の人口流動の状況を把握するため、「地域連帯軸」としてまとめています。

「佐世保市都市計画マスタープランダイジェスト」全体構想を一部加筆

２）日用品・買回り品の購買行動、通勤の状況

■日用品・買回り品の購買行動

「都市マスタープラン」に掲載されている「まちづくり（都市計画）市民意識アンケート調査」の地域ごとの住民の生活行動から、日頃の住民の動きを把握しました。

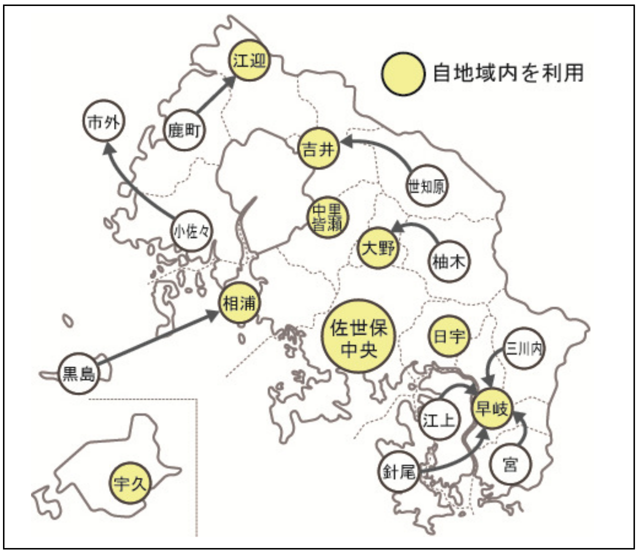
◇日用品（日常の食料品、日用雑貨等）の買い物

- 東部エリアの三川内地域、江上地域、宮地域、針尾地域や、中北部エリアの柚木地域等は、日用品の買い物も同一エリアの地域核（東部エリアは早岐地域、中北部エリアは大野地域）に依存している傾向にあります。
- 北部エリアは、鹿町地域が江迎地域に、世知原地域が吉井地域に、小佐々地域が市外に依存する傾向にあります。
- その他の地域では、自地域内を利用しています。

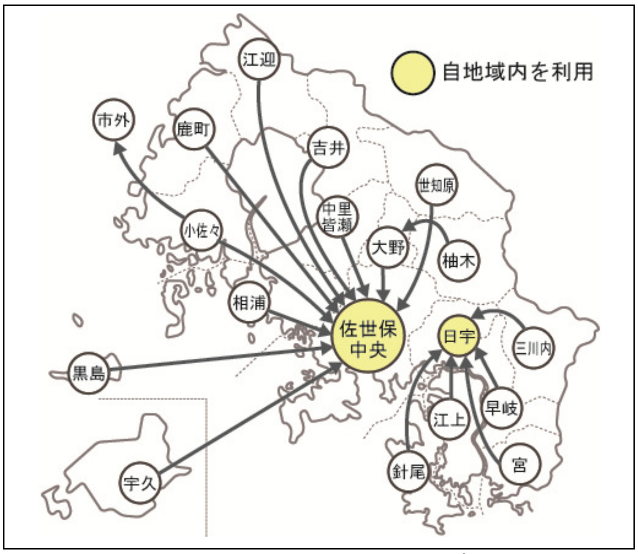
◇買回り品（洋服、かばん、靴、貴金属等）の買い物

- 佐世保中央地域や大型の商業施設を有する日宇地域へ買い物に出かける場合が多くなっています。

図表　日用品（平成 21 年・平成 22 年アンケート）



図表　買回り品（平成 21 年・平成 22 年アンケート）

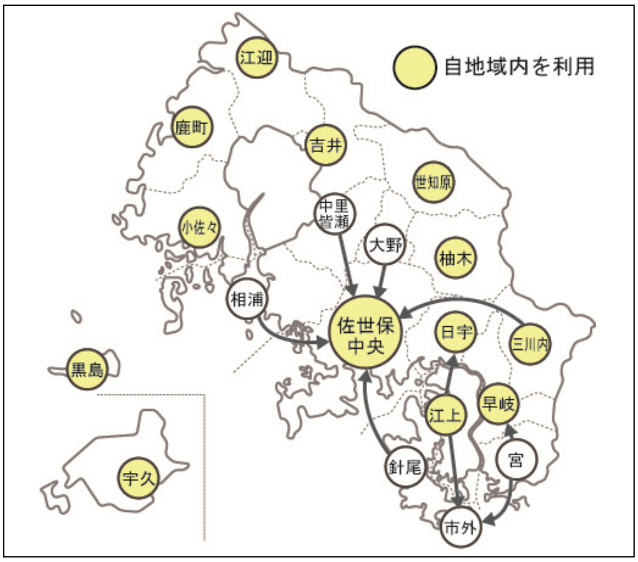


出典：「佐世保市都市計画マスタープラン」２章より

■通勤の状況

佐世保中央を中心とした周辺地域は、中心部への通勤が多く、郊外部では居住地域内に通勤する人が多い状況です。

図表　通勤（平成 21 年・平成 22 年アンケート）



出典：「佐世保市都市計画マスタープラン」２章より

（３） ６エリア・離島別の地域特性

佐世保中央エリア	佐世保中央地域

※「佐世保市都市計画マスタープラン」より一部引用
※佐世保中央エリアは、都市計画マスタープランでは、佐世保中央地域と宇久地域（離島）で構成されますが、当白書では、両地域を分離し、ここでは佐世保中央地域のみを取り上げます。

１）地勢上の特性

佐世保中央地域は、佐世保市全体の約 11％の面積を有しています。そのうち、中心部には商業地・工業地及び住宅地が集積していますが、山間部や九十九地区等では、手付かずの自然が多く残っており、海岸沿いの一部は西海国立公園として、相浦エリアや北部エリアと一体となって豊かな自然環境や美しい自然景観を形成しています。

２）地域機能上の特性

JR 佐世保線や松浦鉄道の鉄道、西九州自動車道及び海上交通等の交通機能が集積する都市の玄関口となっています。都市全域及び周辺市町に高い水準で都市サービスを提供する都市の中心として、また多様な産業によって都市の活力を牽引する役割を担っています。

多くの宅地がこの佐世保中央地域にあります。特に、商業地・工業地については、佐世保市の半分がこの佐世保中央地域にあります。

３）産業上の特性（産業別就業構造）

就業者数は減少傾向にあり、約４万人が就業しています。産業構造の内訳をみると、第一次産業が１％、第二次産業が１６％、第三次産業が８３％であり、地域面積や人口等を考慮すると、都会的な地域であるといえます。

第一次産業では、農業、次いで漁業となっています。第二次産業は建設業、製造業が半々です。第三次産業は、卸売業・小売業が最も多く、次いでサービス業、医療・福祉、公務と続きます。

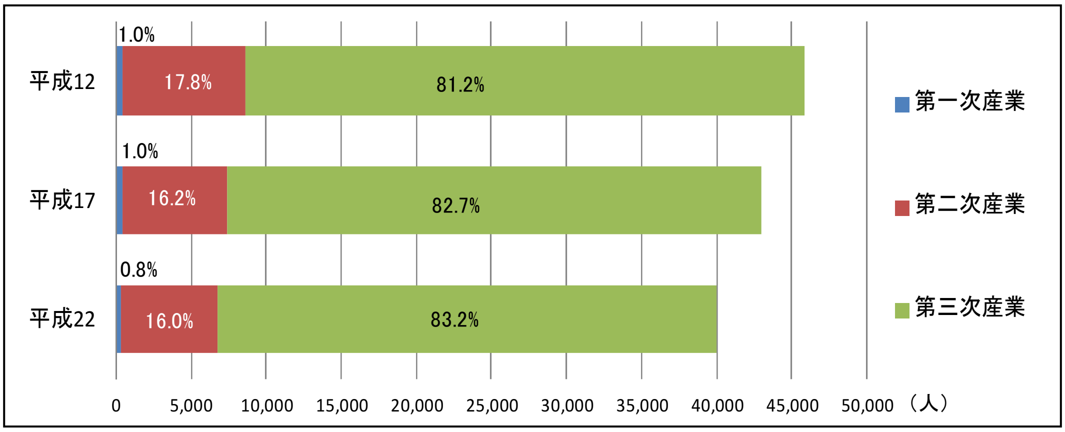
第二次産業中、製造業の主力は造船業ですが、現在、国際的な競争の波にさらされており、今後は縮小していくことが想定されます。そのため、第三次産業の割合は、さらに高まるものと思われ、中でも医療・福祉、観光業（その他サービス業、宿泊業）による牽引が期待されます。第三次産業が伸び悩むと、人口流出に直接つながることも懸念されるため、製造業の活性化にも着目されます。

４）人口構成変化

平成 12 年から平成 22 年にかけて、人口は９万 7,358 人から８万 9,166 人と 8%減少しています。その間、生産年齢人口比率は 3%減を示す一方、老齢人口比率は 24%から 29%と増加し、確実に高齢化が進んでいます。

平成 42 年には、人口が６万 6,223 人と、平成 22 年と比較して 26%減と大きく減少すると同時に、老齢人口比率は 36%と高齢化が進むことが推計されます。

図表　産業別就業構造(佐世保中央エリア佐世保中央地域)



出典：平成 22 年国勢調査より

図表　５歳階級別の人口推移（佐世保中央エリア佐世保中央地域）

過去⇒現在

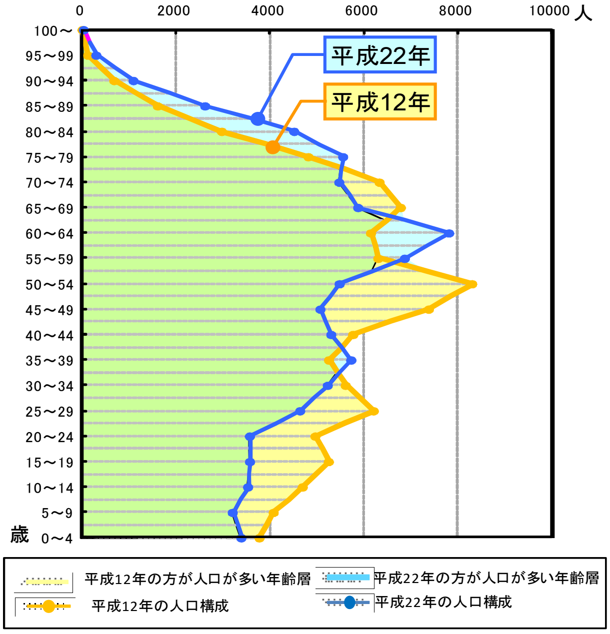
2000(H12)年　⇒　2010(H22)年

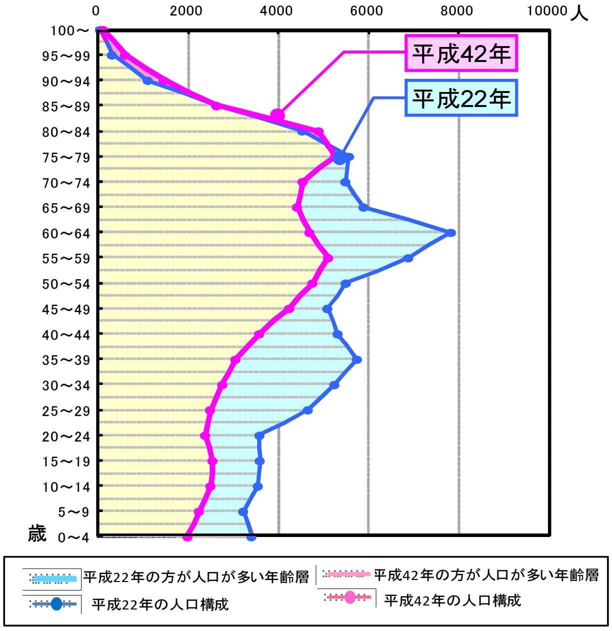
2000年（H12年）	2010年（H22年）	人口増減	増減率
97,358人	89,166人	−8,192人	−8.4%

現在⇒将来

2010(H22)年　⇒　2030(H42)年

2010年（H22年）	2030年（H42年）	人口増減	増減率
89,166人	66,223人	−22,943人	−25.7%





	2000年（H12年）	2010年（H22年）	人口増減 構成比増減
老齢人口（65歳～）	23,435人 24.1%	25,575人 28.7%	+2,140人 +4.6
生産年齢人口（15～64歳）	61,338人 63.0%	53,423人 59.9%	−7,915人 −3.1
年少人口（0～14歳）	12,586人 12.9%	10,168人 11.4%	−2,418人 −1.5

	2010年（H22年）	2030年（H42年）	人口増減 構成比増減
老齢人口（65歳～）	25,575人 28.7%	23,914人 36.1%	−1,661人 +7.4
生産年齢人口（15～64歳）	53,423人 59.9%	35,583人 53.7%	−17,840人 −6.2
年少人口（0～14歳）	10,168人 11.4%	6,726人 10.2%	−3,442人 −1.2

相浦エリア	相浦地域

※「佐世保市都市計画マスタープラン」より一部引用

※相浦エリアは、都市計画マスタープランでは、相浦地域及び黒島地域（離島）で構成されますが、当白書では、両地域を分離し、ここでは相浦地域のみを取り上げます。

１）地勢上の特性

相浦地域は、佐世保市全体の約 6%の面積を有しています。開発が行われた宅地等が集積していますが、手付かずの自然が多く残っています。海岸沿いは、西海国立公園として、佐世保中央エリアや北部エリアと一体となった豊かな自然環境を形成しています。

２）地域機能上の特性

市営住宅や民間事業者による宅地開発が行われ、住宅地が地域に集積しています。また、相浦港周辺から相浦商店街一帯及び上相浦駅から大学駅一帯における市街地に都市機能が集積しています。

松浦鉄道、西九州自動車道及び海上交通等で結ばれており、相浦港には、魚市場をはじめとした物流機能を有しています。相浦中里 IC は、佐世保中央エリアや北部エリアとの交通の要所となっています。

長崎県立大学や長崎短期大学等の文教機能や、総合グラウンドのレクリエーション機能を有していることから、他の地域から多くの人が訪れています。

３）産業上の特性（産業別就業構造）

就業者数は、佐世保市内においては増加傾向にある唯一の地域で、約 1.3 万人が就業しています。産業構造の内訳をみると、第一次産業が４％、第二次産業が 20%、第三次産業が 76%であり、地域面積や人口等を考慮すると、都会的な地域であるといえます。

第一次産業は、漁業が中心です。第二次産業は、建設業、製造業が多くの割合を占めています。第三次産業は、卸売業・小売業と医療・福祉が大きな割合を占めています。

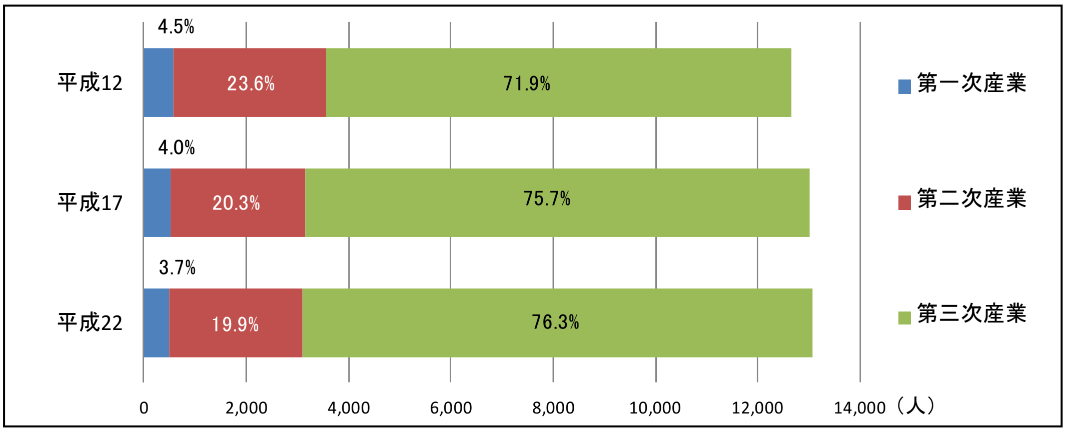
比較的、第一次産業の従事者が多い地域の１つであり、特に高島をはじめとした島々の周辺では多種多様な漁業が盛んに行われ、漁業従事者が２番目に多い地域です。

４）人口構成変化

平成 12 年から平成 22 年にかけて、人口は２万 8,028 人から２万 8,598 人と 2%増加しています。その間、生産年齢人口比率は 2%減を示す一方、老齢人口比率は、14%から 18%と増加し、他の地域より低いものの、徐々に高齢化が進んでいます。

平成 42 年には、人口が２万 7,246 人と、平成２２年と比較して 5%減と減少に転じ、その一方で、老齢人口は増加し、老齢人口比率は 25%と高齢化が進むことが推計されます。

図表　産業別就業構造（相浦エリア相浦地域）



出典：平成 22 年国勢調査より

図表　５歳階級別の人口推移（相浦エリア相浦地域）

過去⇒現在

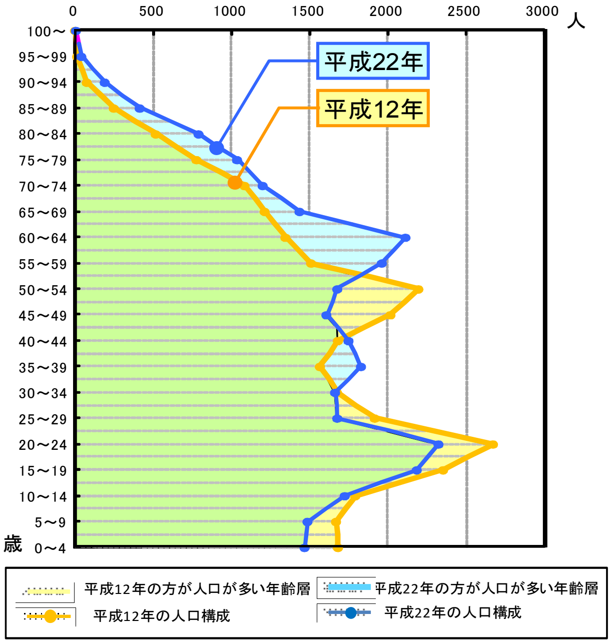
2000（H12）年　⇒　2010（H22）年

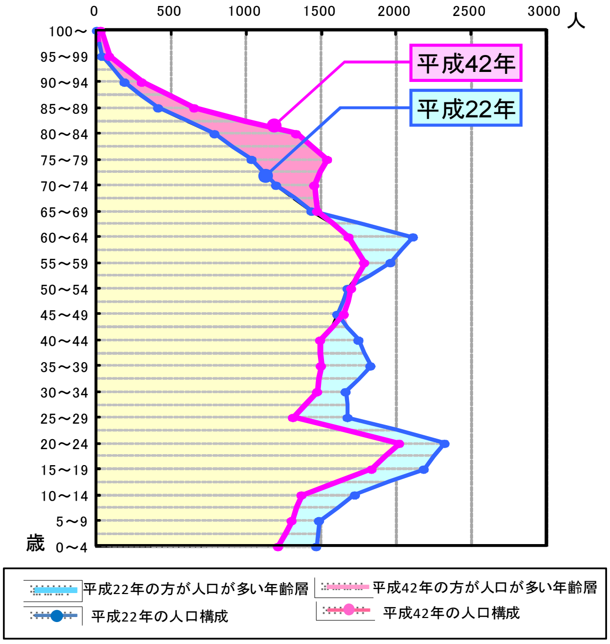
2000年（H12年）	2010年（H22年）	人口増減	増減率
28,028人	28,598人	+570人	2.0%

現在⇒将来

2010（H22）年　⇒　2030（H42）年

2010年（H22年）	2030年（H42年）	人口増減	増減率
28,598人	27,246人	−1,352人	−4.7%





	2000年（H12年）	2010年（H22年）	人口増減 構成比増減
老齢人口（65歳～）	3,936人 14.0%	5,121人 17.9%	+1,185人 +3.9
生産年齢人口（15～64歳）	18,945人 67.6%	18,797人 65.7%	−148人 −1.9
年少人口（0～14歳）	5,147人 18.4%	4,682人 16.4%	−465人 −2.0

	2010年（H22年）	2030年（H42年）	人口増減 構成比増減
老齢人口（65歳～）	5,121人 17.9%	6,887人 25.3%	+1,766人 +7.4
生産年齢人口（15～64歳）	18,797人 65.7%	16,470人 60.4%	−2,327人 −5.3
年少人口（0～14歳）	4,682人 16.4%	3,889人 14.3%	−793人 −2.1

中北部エリア	中里皆瀬地域、大野地域、柚木地域

※「佐世保市都市計画マスタープラン」より一部引用

１）地勢上の特性

当エリアは、佐世保市全体の約 14％の面積を有しています。そのうち、農地面積が多くを占めていますが、大野地域には宅地が集積しており、他の地域も国道、鉄道沿いに宅地が集積しています。

市街地から北部エリアとの境に連なる国見山、板山、五蔵岳等の山々にかけて、多くの貯水池、水源地を有し、豊かな自然環境が保全されています。中でも、柚木地域にある川谷水源地周辺は、たくさんのホタルが飛び交うホタルの里として知られています。

当エリアは、相浦地域と合わせ「相浦谷」と呼ばれ、泉福寺洞窟、岩下洞穴、下本山岩陰等の石器時代の歴史的遺跡を多く有しています。

２）地域機能上の特性

中里皆瀬地域は、相浦中里 IC を有し、佐世保中央エリアや北部エリアなどと結ばれています。

大野地域においては、支所周辺や国道 498 号沿いに商業施設や医療施設等が集積しており、当エリア内の周辺地域の日常生活サービスを補完しています。

柚木地域は、水稲やトマト、メロンの栽培や畜産等農業が当地域の基幹的な産業となっており、農産物を求めて地域外から多くの人が訪れています。

３）産業上の特性（産業別就業構造）

就業者数は減少傾向にありますが、微減にとどまっており、約 1.5 万人が就業しています。産業構造の内訳をみると、第一次産業が 4％、第二次産業が 20％、第三次産業が 75％になっています。これまでの推移をみると、第二次産業から第三次産業へのシフトが緩やかに進行しています。

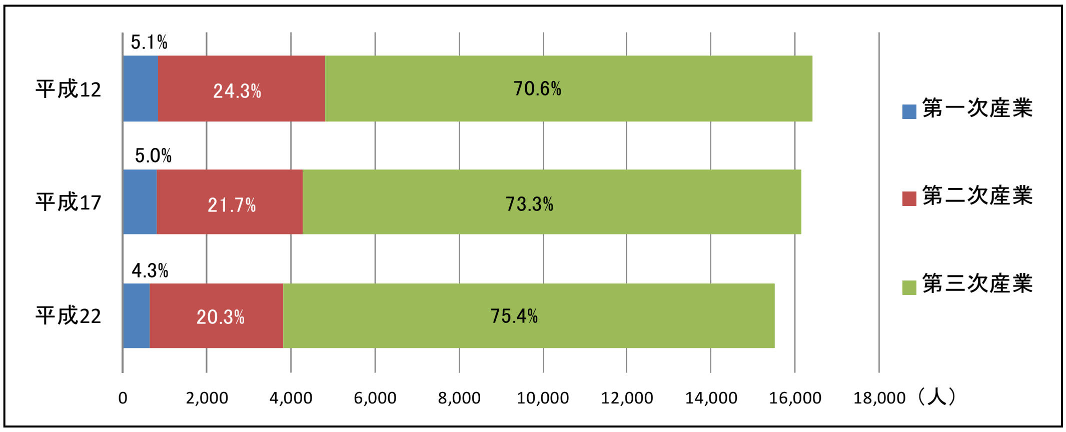
第一次産業は、農業が中心です。第二次産業は、製造業がほぼ横ばいですが、建設業が大きく減少しています。第三次産業は、卸売業・小売業、次いで医療・福祉の割合が高くなっています。

４）人口構成変化

平成 12 年から平成 22 年にかけて、人口は３万 5,960 人から３万 4,902 人と、この 10 年間は大きな人口変化はなかったものの、生産年齢人口比率は４％減を示す一方、老齢人口比率は 6％増となり、高齢化が進んでいます。

平成 42 年には、人口が２万 8,878 人と、平成 22 年と比較して 17％減となり、老齢人口比率は 34％と高齢化が進むことが推計されます。

図表　産業別就業構造（中北部エリア）



出典：平成 22 年国勢調査より

図表　５歳階級別の人口推移（中北部エリア）

過去⇒現在

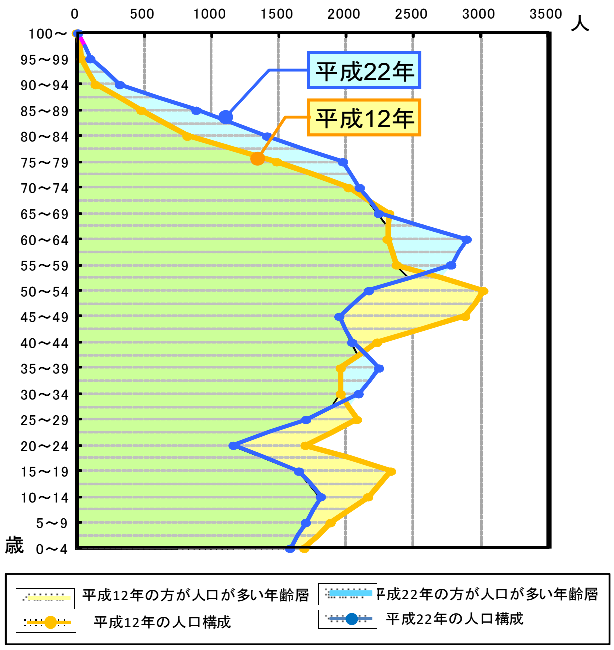
2000（H12）年　⇒　2010（H22）年

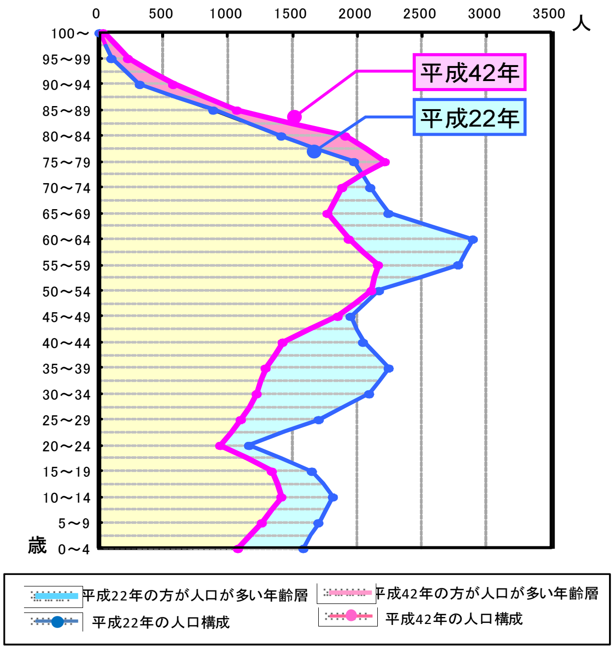
2000年（H12年）	2010年（H22年）	人口増減	増減率
35,960人	34,902人	−1,058人	−2.9%

現在⇒将来

2010（H22）年　⇒　2030（H42）年

2010年（H22年）	2030年（H42年）	人口増減	増減率
34,902人	28,878人	−6,024人	−17.3%





	2000年（H12年）	2010年（H22年）	人口増減 構成比増減
老齢人口（65歳～）	7,320人 20.4%	9,069人 26.0%	+1,749人 +5.6
生産年齢人口（15～64歳）	22,880人 63.6%	20,722人 59.4%	−2,158人 −4.3
年少人口（0～14歳）	5,747人 16.0%	5,105人 14.6%	−642人 −1.4

	2010年（H22年）	2030年（H42年）	人口増減 構成比増減
老齢人口（65歳～）	9,069人 26.0%	9,711人 33.6%	+642人 +7.6
生産年齢人口（15～64歳）	20,722人 59.4%	15,403人 53.3%	−5,319人 −6.0
年少人口（0～14歳）	5,105人 14.6%	3,764人 13.0%	−1,341人 −1.6

日宇エリア	日宇地域

※「佐世保市都市計画マスタープラン」より一部引用

１）地勢上の特性

日宇エリアは、佐世保市全体の面積の約 4%を有しています。その内の半分は、農地と宅地であり、残りの半分は山林や原野等となっています。

烏帽子岳一帯は、佐世保中央地域と一体となった良好な自然環境が保全され、水稲や花き栽培も行われています。

２）地域機能上の特性

佐世保中央地域に隣接し、国道から山側に向かって、開発による大規模な住宅地が多く存在しているため、住宅地の割合の最も多い地域となっています。

商業地、工業地も集積している地域です。その中で、白岳・沖新地区においては、従来、工場が集積する地区でしたが、近年、工場跡地への商業施設の立地がみられます。

国道 35 号沿いに、佐世保中央地域から続く高密度な市街地が形成されています。

大塔地区においては、市域全体や周辺市町から利用される物販をはじめとした商業の拠点が形成されています。併せて、本市における陸上交通の要所となっており、卸団地や食品団地等物流の拠点を形成しています。

３）産業上の特性（産業別就業構造）

就業者数は、減少傾向にあるものの、微減にとどまっており、約 1.2 万人が就業しています。産業構造の内訳をみると、第一次産業が２%、第二次産業が 20%、第三次産業が 78%であり、エリア面積や人口等を考慮すると、都会的な地域であるといえます。

第一次産業は、農業が中心です。第二次産業は、建設業と製造業で半々です。第三次産業は、卸売業・小売業、次いで医療・福祉が大きな割合を占めています。

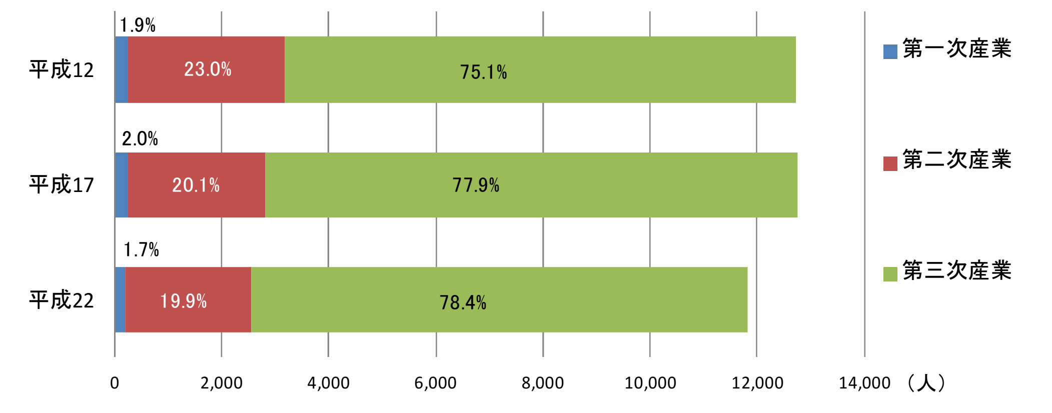
就業者数は、少ない地域である一方、第二次産業の従事者数は、多い地域です。

４）人口構成変化

平成 12 年から平成 22 年にかけて、人口は２万 8,333 人から２万 7,414 人と 3%減少しています。その間、生産年齢人口比率は、5%減を示す一方、老齢人口比率は 6%増と、高齢化が進んでいます。

平成 42 年には、人口が２万 2,598 人と、平成 22 年と比較して、18%減となり、老齢人口比率は 34%と高齢化が進むことが推計されます。

図表　産業別就業構造（日宇エリア）



出典：平成 22 年国勢調査より

図表　５歳階級別の人口推移（日宇エリア）

過去⇒現在

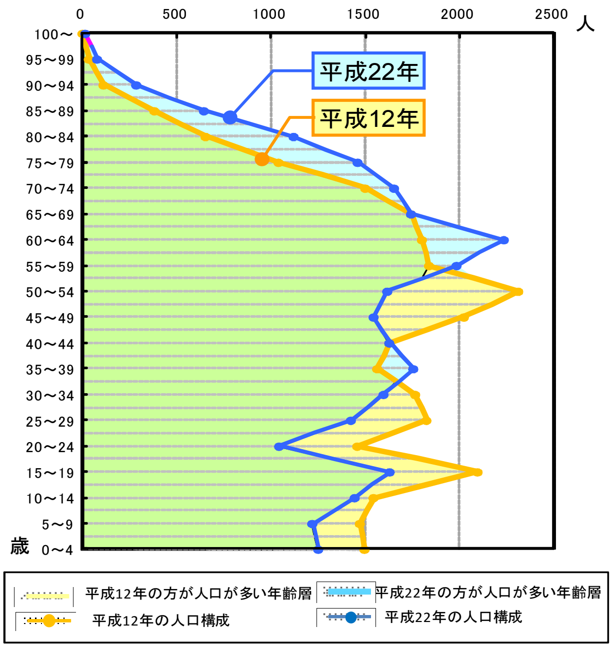
2000（H12）年　⇒　2010（H22）年

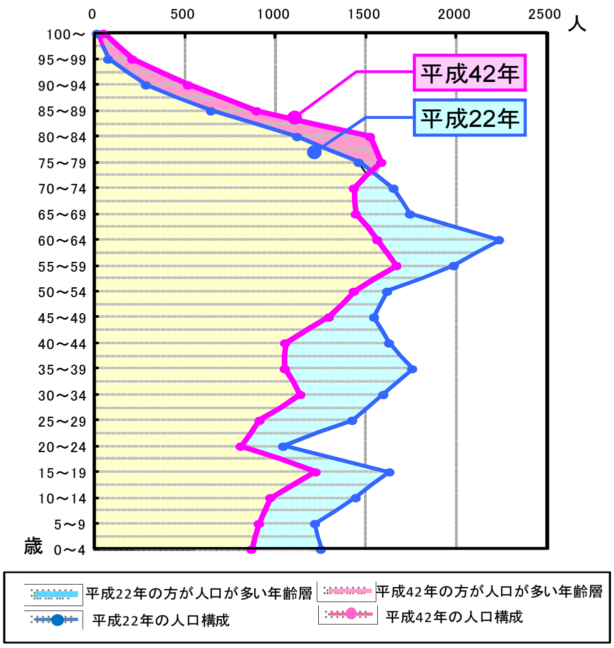
2000年（H12年）	2010年（H22年）	人口増減	増減率
28,333人	27,414人	−919人	−3.2%

現在⇒将来

2010（H22）年　⇒　2030（H42）年

2010年（H22年）	2030年（H42年）	人口増減	増減率
27,414人	22,598人	−4,816人	−17.6%





	2000年（H12年）	2010年（H22年）	人口増減 構成比増減
老齢人口（65歳～）	5,479人 19.3%	7,013人 25.6%	+1,534人 +6.2
生産年齢人口（15～64歳）	18,332人 64.7%	16,480人 60.1%	−1,852人 −4.6
年少人口（0～14歳）	4,518人 15.9%	3,920人 14.3%	−598人 −1.6

	2010年（H22年）	2030年（H42年）	人口増減 構成比増減
老齢人口（65歳～）	7,013人 25.6%	7,676人 34.0%	+663人 +8.4
生産年齢人口（15～64歳）	16,480人 60.1%	12,167人 53.8%	−4,313人 −6.3
年少人口（0～14歳）	3,920人 14.3%	2,755人 12.2%	−1,165人 −2.1

東部エリア　早岐地域、江上地域、針尾地域、三川内地域、宮地域

※「佐世保市都市計画マスタープラン」より一部引用

１）地勢上の特性

東部エリアは、佐世保市全体の面積の約 23%を占めています。そのうち、農地面積は北部エリアと並び、佐世保市最大の農業地帯を形成しています。三川内、早岐、宮地域においては稲作が、宮、江上、針尾地域の斜面地等では西海みかんや江上文旦が生産されています。また、三川内焼に代表される窯業や漁業の集落が点在しています。

２）地域機能上の特性

当エリアは、佐賀・福岡方面、川棚・大村方面、西海・長崎方面からの玄関口となっています。

早岐地域においては、早岐駅周辺や広田地区に商業施設が多く立地した市街地が形成されており、周辺地域の日常生活機能を補完しています。また、佐世保中央地域から日宇エリア、早岐地域まで一体的に商業地、宅地が広がっており、人口等の往来が多くなっています。

広域交通の利便性の高さから、テクノパークや大学等の新たな土地利用が行われています。

広域的な観光拠点であるハウステンボスや、西海橋、伝統工芸である三川内焼や、近代の歴史遺産である針尾無線塔、無窮洞等、交流による活力やにぎわいを創出する多くの資源を有しています。

３）産業上の特性（産業別就業構造）

就業者数は、ほぼ横ばいで推移し、約 2.3 万人が就業しています。産業構造の内訳をみると、第一次産業が６%、第二次産業が 20%、第三次産業が 74%という構成となっています。

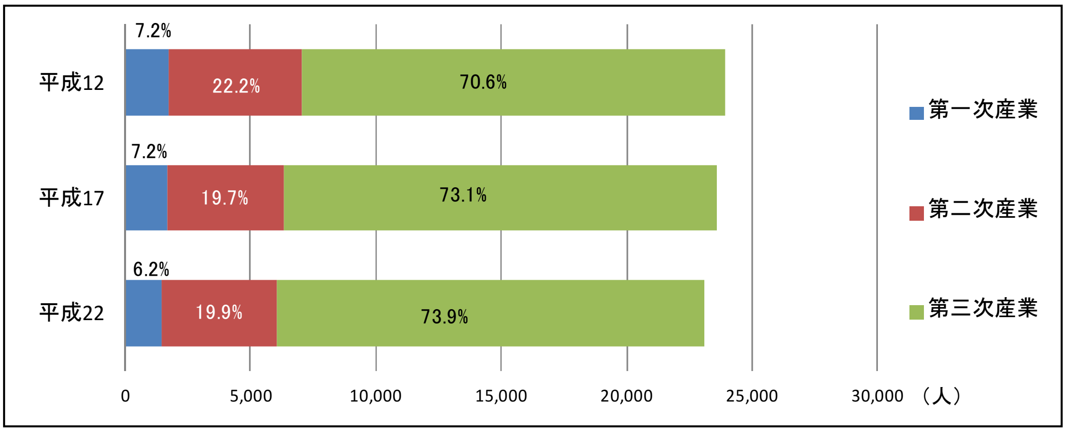
第一次産業は、農業が中心です。第二次産業は、平成 12 年においては、建設業と製造業で半々となっていましたが、現在は、建設業が減少したため、製造業の割合が増えています。第三次産業は、卸売業・小売業、医療・福祉が大きな割合を占めています。

４）人口構成変化

平成 12 年から平成 22 年にかけて、微増ながら人口は、５万 381 人から５万 849 人と 1%増加しました。ただ、その増加は、老齢人口比率が 5%増加したことによるものですが、他の地域より低いものの、17%から 23%と高齢化が進行しています。

平成 42 年には、人口が４万 7,734 人と、平成 22 年と比較して 6%減の微減にとどまっていますが、老齢人口比率は増加し、31%と高齢化が進むことが推計されます。

図表　産業別就業構造（東部エリア）



出典：平成 22 年国勢調査より

図表　５歳階級別の人口推移（東部エリア）

過去⇒現在

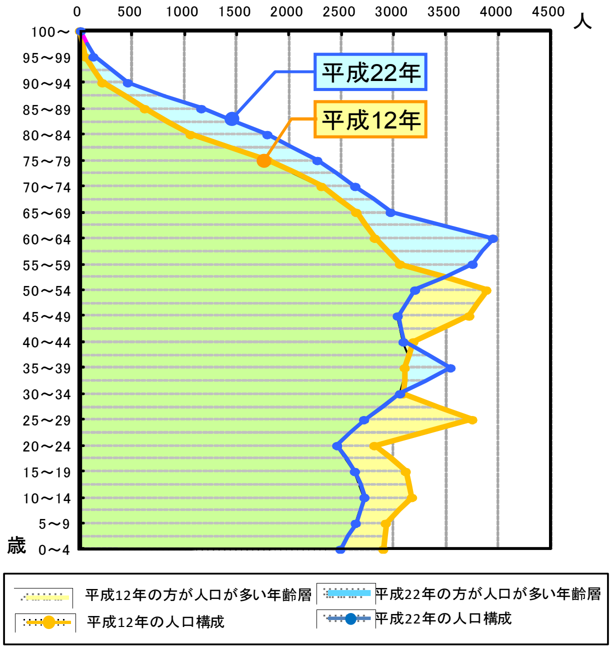
2000（H12）年　⇒　2010（H22）年

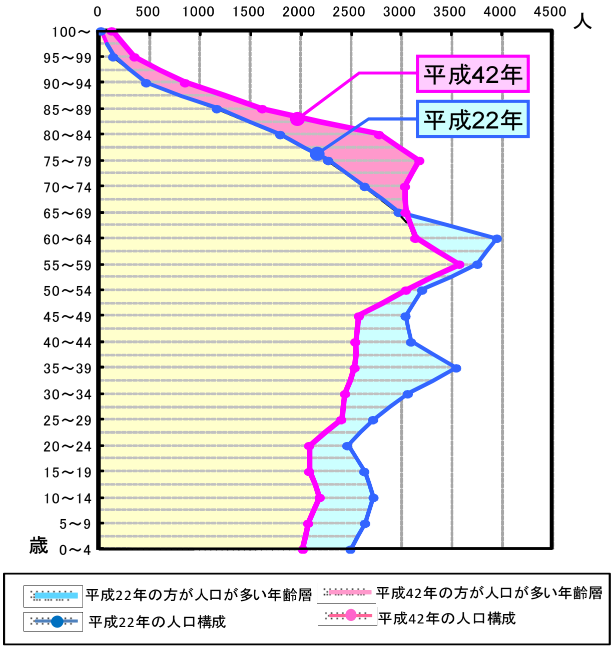
2000年（H12年）	2010年（H22年）	人口増減	増減率
50,381人	50,849人	+468人	0.9%

現在⇒将来

2010（H22）年　⇒　2030（H42）年

2010年（H22年）	2030年（H42年）	人口増減	増減率
50,849人	47,734人	−3,115人	−6.1%





	2000年（H12年）	2010年（H22年）	人口増減 構成比増減
老齢人口（65歳～）	8,750人 17.4%	11,475人 22.6%	+2,725人 +5.2
生産年齢人口（15～64歳）	32,600人 64.7%	31,500人 62.0%	−1,100人 −2.8
年少人口（0～14歳）	9,014人 17.9%	7,865人 15.5%	−1,149人 −2.4

	2010年（H22年）	2030年（H42年）	人口増減 構成比増減
老齢人口（65歳～）	11,475人 22.6%	14,989人 31.4%	+3,514人 +8.8
生産年齢人口（15～64歳）	31,500人 62.0%	26,454人 55.4%	−5,046人 −6.5
年少人口（0～14歳）	7,865人 15.5%	6,291人 13.2%	−1,574人 −2.3

北部エリア	吉井地域、世知原地域、小佐々地域、江迎地域、鹿町地域

※「佐世保市都市計画マスタープラン」より一部引用

１）地勢上の特性

面積は、佐世保市全体の約 35%を占めています。ほとんどが手付かずの自然となっています。農地面積は、東部エリアと並び多くを有し、佐世保市最大の農業地帯を形成しています。

北九十九島の美しい島々を望む長串山や冷水岳と併せ、白岳自然公園や佐々川の清流等豊かな自然景観を有しています。

２）地域機能上の特性

各地域に置かれた行政センターを核にして、地域の都市機能が集積しているのが特徴となっています。江迎地域においては、江迎行政センター周辺から鹿町地域の深江地区にかけて一体的な市街地が形成されています。吉井地域においては世知原地域との関係が深く、また小佐々地域は佐々町との関係が深く日常生活機能の一部を補完している状況です。

小佐々、鹿町は漁業が、江迎、吉井、世知原は農業が盛んな地域となっています。また、佐々川河口付近、江迎の埋立地区、吉井地域の御橋地区等に工業団地の形成も行われています。

当エリアは佐世保中央地域、相浦地域、中北部エリアとの連携において、近隣の佐々町が持つ松浦鉄道、西九州自動車道等の交通機能を利用している状況です。

３）産業上の特性（産業別就業構造）

就業者数は、平成 12 年以降減少傾向となっており、約 1.2 万人が就業しています。産業構造の内訳をみると、第一次産業が 14%、第二次産業が 26%、第三次産業が 61%という構成となっています。

第一次産業は、小佐々、鹿町では漁業が、江迎、吉井、世知原は農業が中心です。第二次産業は、製造業、建設業の順になります。第三次産業は、卸売業・小売業、医療・福祉が大きな割合を占めています。

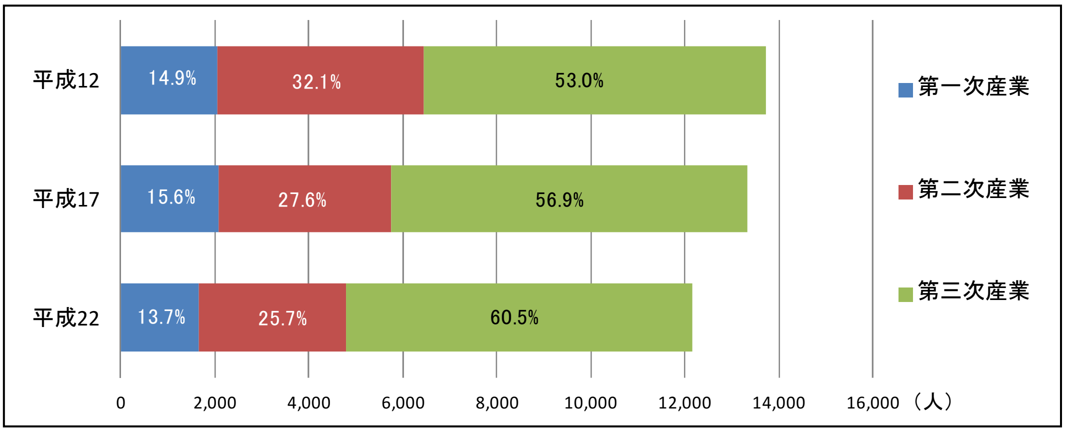
他のエリアと比べ、第一次産業の割合が高く、各地域の主要産業の１つとなっています。

４）人口構成変化

平成 12 年から平成 22 年にかけて、人口は２万 9,551 人から２万 7,043 人と 9%減少しています。その間、生産年齢人口比率は、3%減を示す一方、老齢人口比率は 5%増と、高齢化が進んでいます。

平成 42 年には、人口が１万 9,835 人と、平成 22 年と比較して、27%減少と推計されます。顕著なのは、生産年齢人口の大幅減少で生産年齢人口比率が 50%を割り込み、一方で老齢人口比率は 40%と、高齢化が進むことが推計されます。

図表　産業別就業構造（北部エリア）



出典：平成 22 年国勢調査より

図表　５歳階級別の人口推移（北部エリア）

過去⇒現在

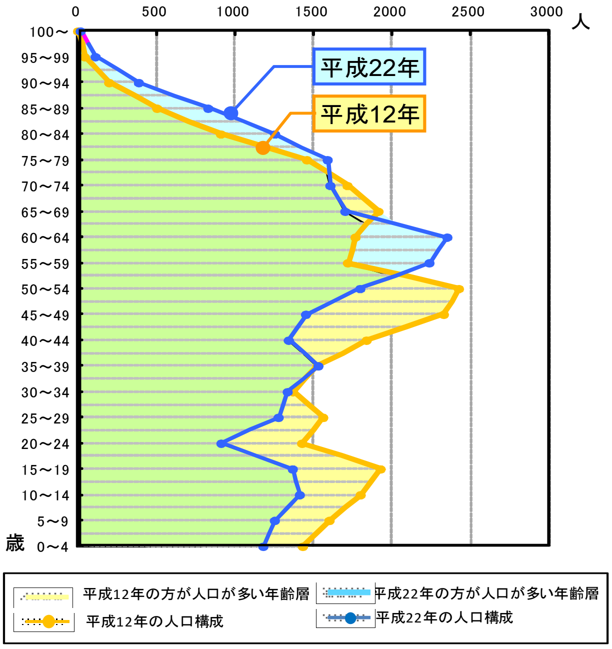
2000（H12）年　⇒　2010（H22）年

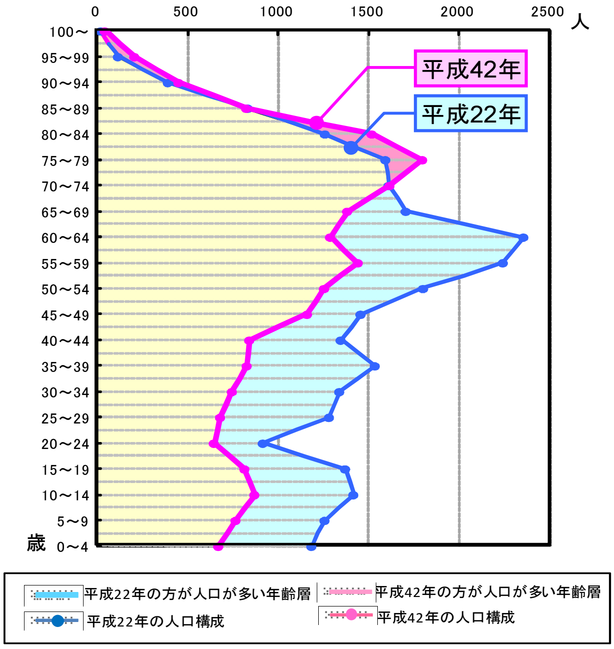
2000年（H12年）	2010年（H22年）	人口増減	増減率
29,551人	27,043人	−2,508人	−8.5%

現在⇒将来

2010（H22）年　⇒　2030（H42）年

2010年（H22年）	2030年（H42年）	人口増減	増減率
27,043人	19,835人	−7,208人	−26.7%





	2000年（H12年）	2010年（H22年）	人口増減 構成比増減
老齢人口（65歳～）	6,772人 22.9%	7,528人 27.9%	+756人 +4.9
生産年齢人口（15～64歳）	17,929人 60.7%	15,643人 57.9%	−2,286人 −2.8
年少人口（0～14歳）	4,845人 16.4%	3,857人 14.3%	−988人 −2.1

	2010年（H22年）	2030年（H42年）	人口増減 構成比増減
老齢人口（65歳～）	7,528人 27.9%	7,835人 39.5%	+307人 +11.6
生産年齢人口（15～64歳）	15,643人 57.9%	9,695人 48.9%	−5,948人 −9.0
年少人口（0～14歳）	3,857人 14.3%	2,305人 11.6%	−1,552人 −2.6

佐世保中央エリア	宇久地域（離島）

※「佐世保市都市計画マスタープラン」より一部引用

１）地勢上の特性

宇久地域は、佐世保港から北西約 60km の五島列島最北部に位置し、その面積は、佐世保市全体の約６％を有します。農地と宅地が過半を占めています。

優れた眺望の城ヶ岳、美しい砂浜の大浜、スゲ浜等の豊かな自然の中に、農業集落や漁業集落が形成されています。自然と親しめる公園や海水浴場をはじめとし、対馬瀬灯台やアコウの巨樹といった歴史文化資源等地域外との交流に資する特有の地域資源を有しています。

２）地域機能上の特性

宇久地域は、同一エリアである佐世保中央地域と航路で結ばれており、買い物や医療等日常生活においてつながりが深い地域です。佐世保港から上五島を結ぶ定期航路及び博多港から上五島を結ぶ定期航路は、島内外を連絡する唯一の交通手段です。

３）産業上の特性（産業別就業構造）

就業者数は、激減傾向にあり、約 0.1 万人と、１０年前と比べて、約 65％まで落ち込んでいます。産業構造の内訳をみると、第一次産業が 28％、第二次産業が 12％、第三次産業が 61％と、他のエリアと比べ、第一次産業の割合が比較的高くなっています。

第一次産業は、宇久牛に代表される農業が中心ですが、漁業も盛んです。第二次産業は、建設業が盛んです。第三次産業は、卸売業・小売業、次いで医療・福祉が大きな割合を占めています。

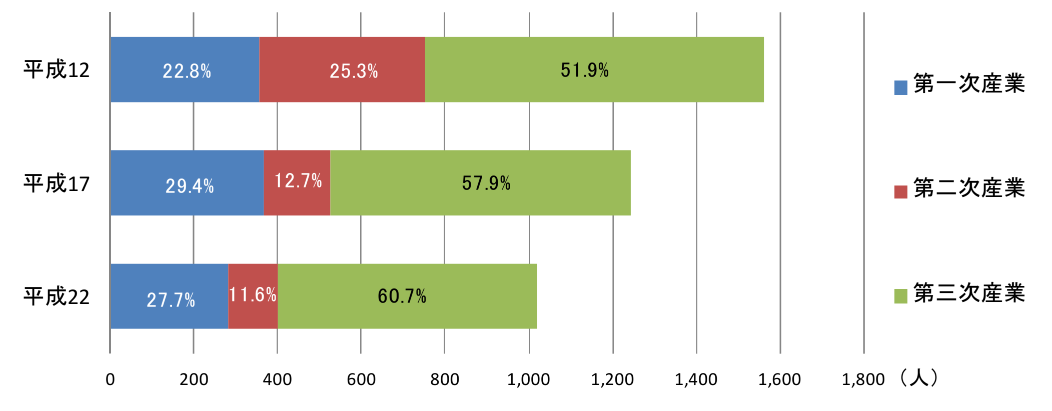
自然・歴史や宇久牛、新鮮な魚介類等を生かした観光振興の可能性があると考えられます。

４）人口構成変化

平成 12 年から平成 22 年にかけて、人口は 4,010 人から 2,591 人と 35％の大幅な減少となりました。特に年少人口、生産年齢人口の減少は大きく、老齢人口比率は、46％と高齢化が顕著に進んでいる状況が分かります。

平成 42 年には、人口がさらに大きく減少し、現在の 38％の 998 人と過疎化が進む見込みです。また、老年人口比率は 77％と、極端な高齢化地域となることが推計されます。

図表　産業別就業構造（佐世保中央エリア宇久地域）



出典：平成 22 年国勢調査より

図表　５歳階級別の人口推移（佐世保中央エリア宇久地域）

過去⇒現在

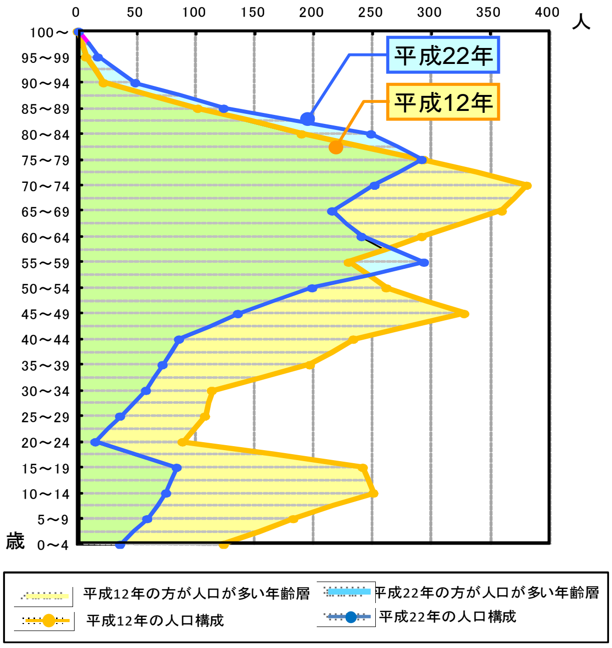
2000（H12）年　⇒　2010（H22）年

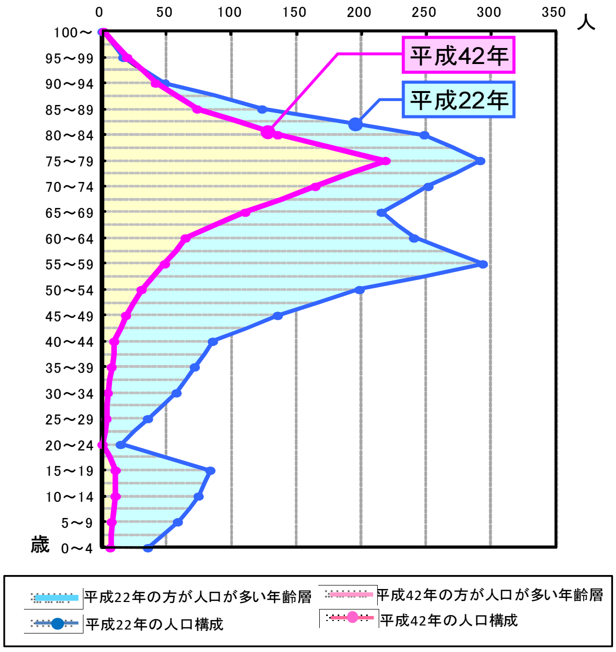
2000年（H12年）	2010年（H22年）	人口増減	増減率
4,010人	2,591人	−1,419人	−35.4%

現在⇒将来

2010（H22）年　⇒　2030（H42）年

2010年（H22年）	2030年（H42年）	人口増減	増減率
2,591人	998人	−1,593人	−61.5%





	2000年（H12年）	2010年（H22年）	人口増減 構成比増減
老齢人口（65歳～）	1,356人 33.8%	1,200人 46.3%	−156人 +12.5
生産年齢人口（15～64歳）	2,096人 52.3%	1,221人 47.1%	−875人 −5.1
年少人口（0～14歳）	558人 13.9%	170人 6.6%	−388人 −7.4

	2010年（H22年）	2030年（H42年）	人口増減 構成比増減
老齢人口（65歳～）	1,200人 46.3%	769人 77.1%	−431人 +30.7
生産年齢人口（15～64歳）	1,221人 47.1%	203人 20.3%	−1,018人 −26.8
年少人口（0～14歳）	170人 6.6%	26人 2.6%	−144人 −4.0

相浦エリア	黒島地域（離島）

※「佐世保市都市計画マスタープラン」より一部引用

１）地勢上の特性

黒島地域は、相浦港の西方 13km に位置し、その面積は、佐世保市全体の約１％で最も小さい地域であり、人口も最も少ない地域です。

地域面積の多くは、農地となっています。また、黒島天主堂をはじめ、特有の自然環境や集落等島全体を文化的景観として、その保全に向けた取組みが進んでいます。

２）地域機能上の特性

相浦港と黒島港の間は定期航路が就航し、高島地区を経由し約 50 分で結ばれています。同一エリアの相浦地域は、黒島地域の日常生活機能を補完する関係にあります。

３）産業上の特性（産業別就業構造）

就業者数は、減少傾向にあり、約 240 人が就業していますが、その減少幅は、直近５年で緩やかになりました。産業構造の内訳をみると、第一次産業が 50%、第二次産業が 8%、第三次産業が 42%となっており、第一次産業は他の地域と比べて、最も高い割合を占めています。

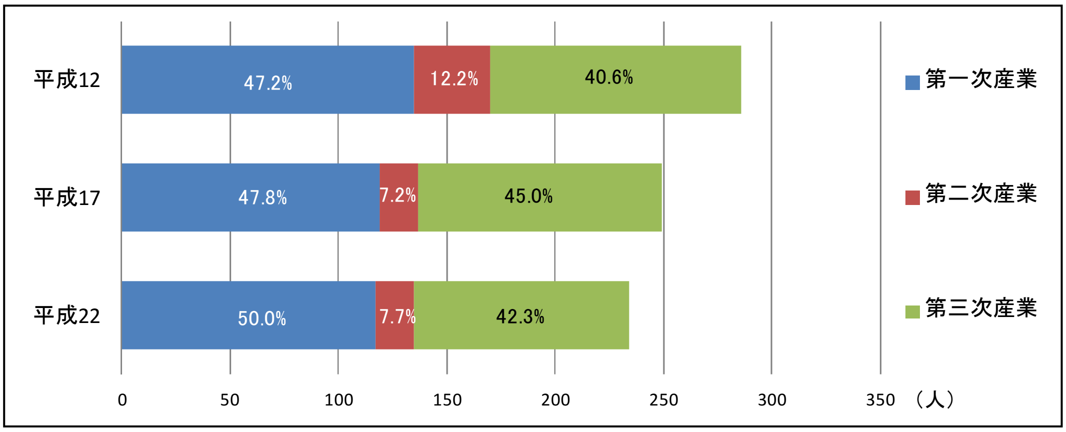
第一次産業は、その多くが漁業です。第二次産業は、製造業が中心です。第三次産業は、教育・学習支援業、次いで運輸業・郵便業と医療・福祉と続いています。

４）人口構成変化

平成 12 年から平成 22 年にかけて、人口は 778 人から 538 人と 30%の大幅な減少となりました。特に年少人口、生産年齢人口の減少は大きく、老齢人口比率は、51％と高齢化が顕著に進んでいる状況がわかります。

平成 42 年には、人口がさらに大きく減少し、現在の 40%の 217 人と過疎化が進む見込みです。また、老齢人口比率は、58%と、極端な高齢化地域となることが推計されます。

図表　産業別就業構造（相浦エリア黒島地域）



出典：平成 22 年国勢調査より

図表　５歳階級別の人口推移（相浦エリア黒島地域）

過去⇒現在

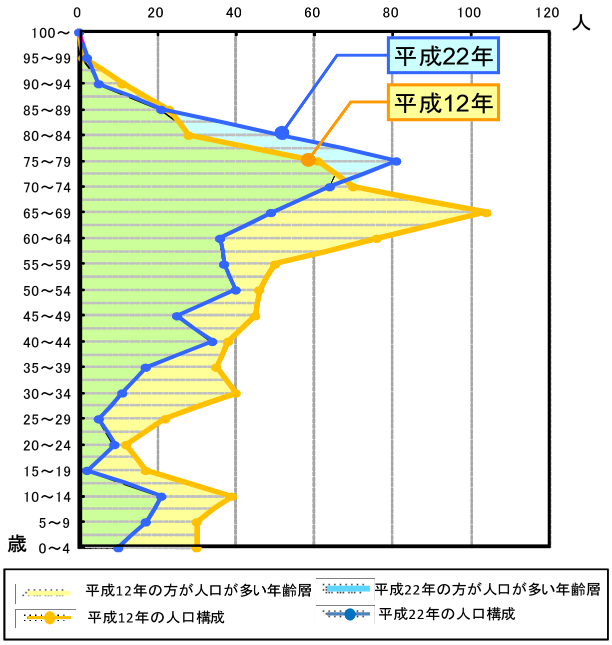
2000（H12）年　⇒　2010（H22）年

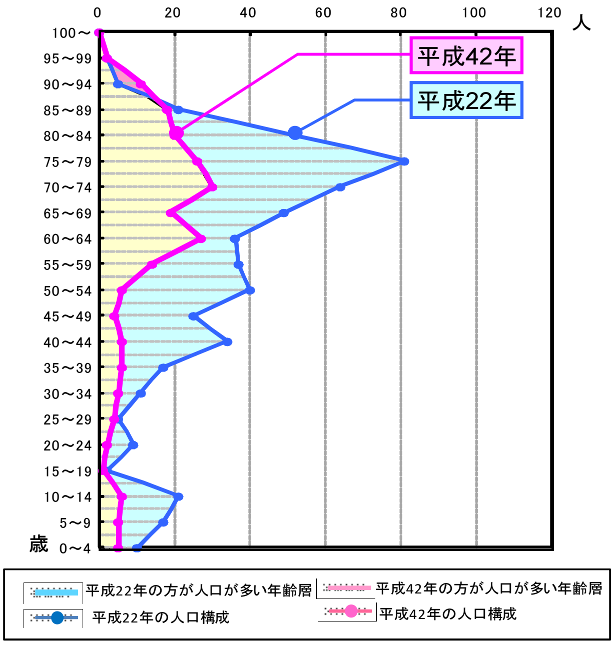
2000年（H12年）	2010年（H22年）	人口増減	増減率
778人	538人	−240人	−30.8%

現在⇒将来

2010（H22）年　⇒　2030（H42）年

2010年（H22年）	2030年（H42年）	人口増減	増減率
538人	217人	−321人	−59.7%





	2000年（H12年）	2010年（H22年）	人口増減 構成比増減
老齢人口（65歳～）	298人 38.3%	274人 50.9%	−24人 +12.6
生産年齢人口（15～64歳）	381人 49.0%	216人 40.1%	−165人 −8.8
年少人口（0～14歳）	99人 12.7%	48人 8.9%	−51人 −3.8

	2010年（H22年）	2030年（H42年）	人口増減 構成比増減
老齢人口（65歳～）	274人 50.9%	126人 58.1%	−148人 +7.1
生産年齢人口（15～64歳）	216人 40.1%	75人 34.6%	−141人 −5.6
年少人口（0～14歳）	48人 8.9%	16人 7.4%	−32人 −1.5

■　６エリア・18 地域の視点を変えたグループ分け

18 地域の特性を、人口面（市全体に対する人口割合、人口構成、将来人口変化）、地域特性面（産業状況の特性）及び公共施設保有状況面（市全体に対する保有割合、保有量・保有機能）の３つの視点でまとめると、大きく６つのグループに分類できます。

【Ⅰ 佐世保中央グループ】

人口や公共施設が集積していますが、将来の人口は、市の全体の割合より大きく人口が減少（-25.7%）すると予測されています。

【Ⅱ 相浦・早岐グループ】

比較的人口が集積し、第３次産業が中心である都市型の地域です。

【Ⅲ 大野・日宇グループ】

比較的人口が集積し、第３次産業が中心の都市型の地域ですが、将来の人口は減少傾向（－18%～－13%）となっています。

【Ⅳ 旧佐世保市郊外グループ】

高齢化が進んでおり、将来の人口は減少傾向（－36%～－20%）となっています。また、産業は、第１次産業の割合が比較的高く、郊外型の地域です。

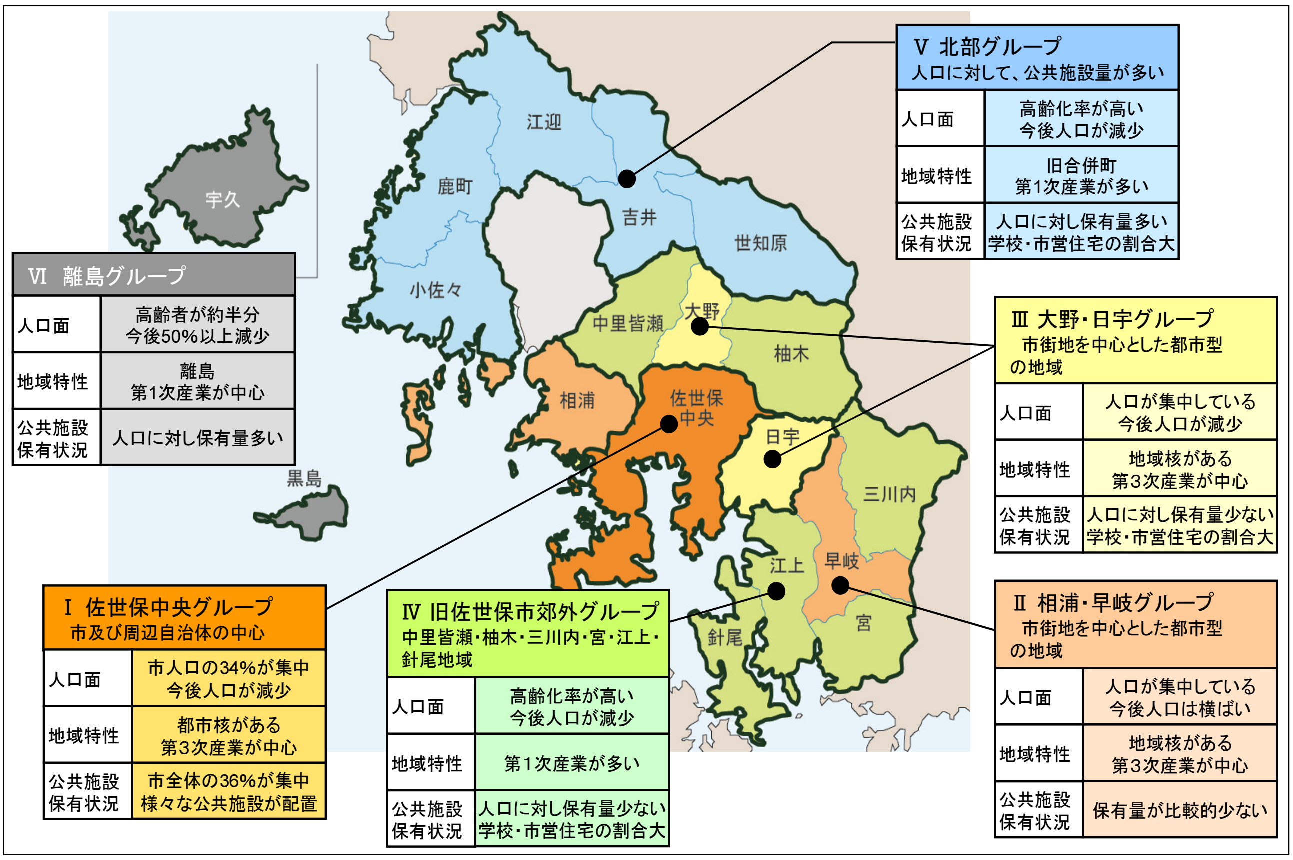
【Ⅴ 北部グループ】

宇久地域を除き、平成 17 年度以降に合併した地域であり、将来の人口は、減少傾向（－34%～－21%）となっています。また、公共施設の保有状況をみると、旧町での公共施設を保有しているため、地域住民１人当たりの保有面積が、市全体より大幅に多くなっています。

【Ⅵ 離島グループ】

離島である宇久地域、黒島地域の将来の人口は、大幅な減少傾向（－62%～－60%）となっています。また、離島であるため、地域内で公共施設サービスを完結する必要があるため、地域住民１人当たりの保有面積が、市全体より大幅に多くなっています。

図表　18 地域のタイプ分類



図表　地域別の特性

	エリア	地域	人口面	地域特性	公共施設保有状況
Ⅰ	佐世保中央	佐世保中央	市全体の34%の人口が集中	都市核がある地域	市全体の36%の公共施設が集中
			今後、人口は25.7%減少	第3次産業が83.2%と都会的地域	市全体を管轄する施設が集中
Ⅱ	相浦	相浦	生産人口率65.7%平均より高	地域核がある地域	地域人口1人当たり 4.3㎡を保有
			今後、人口は4.7%減少	第3次産業が76.3%と都会的地域	卸売市場等の施設が配置
	東部	早岐	生産人口率63.7%平均より高	地域核がある地域	地域人口1人当たり 3.4㎡を保有
			今後、人口は1.6%増加	第3次産業が78.5%と都会的地域	公共施設の91%が学校・市営住宅
Ⅲ	中北部	大野	高齢化率25.7%市平均並	地域核がある地域	地域人口1人当たり 4.3㎡を保有
			今後、人口は13.3%減少	第3次産業が79.4%と都会的地域	公共施設の95%が学校・市営住宅
	日宇	日宇	高齢化率25.6%市平均並	大型商業施設がある地域	地域人口1人当たり 2.2㎡を保有
			今後、人口は17.6%減少	第3次産業が78.4%と都会的地域	東部ｸﾘｰﾝｾﾝﾀｰを配置
Ⅳ	中北部	中里皆瀬	高齢化率25.0%市平均並	第3次産業が73.9%	地域人口1人当たり 4.1㎡/人を保有
			今後、人口は20.3%減少		公共施設の52%が学校・市営住宅
	中北部	柚木	高齢化率29.6%平均より高	第1次産業が14.8%と比較的高い	地域人口1人当たり 5.2㎡を保有
			今後、人口は25.8%減少		公共施設の88%が学校・市営住宅
	東部	三川内	高齢化率33.2%平均より高	第1次産業が10.2%と比較的高い	地域人口1人当たり4.2㎡を保有
			今後、人口は29.3%減少		公共施設の63%が学校
	東部	宮	高齢化率32.4%平均より高	第1次産業が20.2%と比較的高い	地域人口1人当たり 3.0㎡を保有
			今後、人口は36.3%減少		公共施設の85%が学校
	東部	江上	高齢化率25.8%平均より高	第3次産業が73.5%	地域人口1人当たり 1.7㎡を保有
			今後、人口は8.2%減少		公共施設の82%が学校
	東部	針尾	高齢化率32.2%平均より高	第1次産業が28.2%と比較的高い	地域人口1人当たり 2.0㎡を保有
			今後、人口は26.9%減少		公共施設の62%が学校・市営住宅
Ⅴ	北部	小佐々	高齢化率24.6%市平均並	旧小佐々町	地域人口1人当たり 8.5㎡を保有
			今後、人口は26.3%減少	第1次産業が21.2%と比較的高い	公共施設の62%が学校・市営住宅
	北部	鹿町	高齢化率30.0%平均より高	旧鹿町町	地域人口1人当たり9.6㎡を保有
			今後、人口は28.8%減少	第1次産業が15.9%と比較的高い	公共施設の73%が学校・市営住宅
	北部	江迎	高齢化率28.5%平均より高	旧江迎町	地域人口1人当たり 10.0㎡を保有
			今後、人口は26.4%減少	第1次産業が8.6%と比較的高い	公共施設の78%が学校・市営住宅
	北部	吉井	高齢化率24.9%市平均並	旧吉井町	地域人口1人当たり8.8㎡を保有
			今後、人口は20.8%減少	第1次産業が9.3%と比較的高い	公共施設の81%が学校・市営住宅
	北部	世知原	高齢化率34.2%平均より高	旧世知原町	地域人口1人当たり11.7㎡を保有
			今後、人口は33.5%減少	第1次産業が12.3%と比較的高い	公共施設の65%が学校・市営住宅
Ⅵ	佐世保中央	宇久	高齢化率46.3%平均より高	旧宇久町	地域人口1人当たり14.9㎡を保有
			今後、人口は61.5%減少	離島	公共施設の42%が学校・市営住宅
	相浦	黒島	高齢化率50.9%平均より高	離島	地域人口1人当たり19.7㎡を保有
			今後、人口は59.7%減少	第1次産業が50.0%と高い	公共施設の81%が学校・市営住宅